明治四十三年三月一日發行（每月一回發行）　明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主幹　海老名彈正
主筆　安井哲子

要目

神を畏れよ　安井哲
婦人に關する歐米の諸問題　哲學博士 文學士 三澤糺
家庭の勢力　江原素六
友誼　女子學院講師 三谷民子
家庭に於ける宗教　海老名彈正
予が旅行中に見たる種々なる婦人　文學士 栗原基
ゆきあたりばつたり集　文學士 内ケ崎作三郎

第貳巻第參號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第參號目次

●神を畏れよ　安井哲

想苑

●婦人に關する歐米の諸問題　哲學博士 文學士　三澤糺

●家庭の勢力　江原素六

●ゆきあたりばつたり集　文學士　内ヶ崎作三郎

●はきちがひ　如意生

●少年僧正を讀む　孤峰生

家庭

●友誼　女子學院講師　三谷民子

●幼年時代の教育　海老名みや子

●マッサージの話　醫學士　金子魁一

講壇

●家庭に於ける宗教　海老名彈正

雜錄

●予が旅行中に見たる種々なる婦人　文學士　栗原基

●編輯だより　野口せい子

新に生れたる模範婦人雑誌

婦女界

三月一日發刊　第一號　定價一冊拾五錢　郵税一錢五厘　一年税共壹圓七十五錢

▲閑院宮妃殿下の御平生と本誌に賜ひし大光榮

▲將來女子の爲すべき仕事と學ぶべき事柄……女子大學校長　成瀬仁藏

▲吾輩は斯る妻を擇ぶ

政治家　伯爵　大隈重信　小説家　中村春雨
實業家　日比谷平左衛門　美術家　久保田米齋
學者　博士　高田早苗……見逃すべからず

▲貴婦人交際振……岩倉公爵夫人と鍋島侯爵夫人　久保田米齋

日本室の裝飾　米齋

▲良人が勤王の爲に斬罪に處せられし前後の痛恨……前高輪御殿御用係　小川直子

▲子供に對する母親の愛情は父親に劣れり……文學士　三輪田元道

▲身に沁む祖母の訓戒と私の子女教育法……遞信大臣後藤男爵夫人　後藤和子

大附錄

閑院宮妃殿下御染筆『藤花』（石版八度刷）

口繪　雛祭（三色版八度刷）梶田半古……岡田三郎助　桃の節句（石版）……其他寫眞版七枚

▲不思議の怪美人に襲はれた實驗……學習院長　陸軍大將　乃木希典

▲無識の爲に知らず〳〵子供を殺す親……女醫學校長　鷲山彌生

▲女子大學を卒業して小賣商となりし實驗……伊藤玉子

▲音樂は早く學べ田舍の天才と器用彈はあてにならぬ……音樂學校教授　神戸絢子

▲三人の强盜に襲はれ危難を免れた私の實驗……やまと女塾長　伊庭國子

▲春のお化粧……遠藤つね子　お料理……宇山禄子

▲西洋料理法……櫻井女塾長　櫻井ちか子

▲善行旌表會の創立　孝女節婦等の事蹟を募り賞品を贈らんとす詳細は誌上に發表せり（寄稿歡迎）

寄稿歡迎　料理、衛生、文藝、問答、和歌（佐々木信綱選）短文（沼波瓊音選）俳句（内藤鳴雪選）繪畫（梶田半古選）

▶ 電話本局特四三七　電話本局一五三九　同文館　東京神田表神保町　振替東京一三五番 ◀

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

會・員・募・集

共立女子職業學校
櫻友會內
女子手藝普及會編

女子手藝講義錄

今日只今
速に入會せよ

御夫人―令孃―學生
方に申し上げ候

此の講義錄は各專門の方が多年の實驗により丁寧親切に說明してありますから如何なる初學の方にも了解が出來ます且つ一々圖畫を以て敎示してありますから親しく敎師に就ゐて學ぶと同じであります

如斯內容
豐富なり

裁縫科（和洋各種）　編物科（各種）　組糸科（各種）
刺繡科（各種）　袋物科（各種）　造花科（草花各種）
果實科（各種）　割烹科（和洋各種）　細工物科（各種）
手藝用圖畫科（各種）　手藝敎授法（各種）
其他課外講義數種

入會申込所
東京日本橋角
電話本局四一四番
振替東京二三八番
大倉書店

一ケ年
修了

每月一回發行
◀第五號發行▶

進呈
入會規定
內容見本

▲『人道講話』は教育的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は宗教的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は道德的方面の講話を掲載す

人道講話

第貳號（三月一日發行）

定價金六錢　郵稅五厘　毎月一回五日發行

講話

◎修養談　文學博士　村上專精

修養の意義—修養の必要なる所以—修養の原理—修養の分類—修養と教育—修養と宗教—修養と道德—修養の方法—修養の目的—修養の結果

◎感話數則　文學博士　村上專精

雜錄

◎至誠は人道の根抵也　岩上行坡

◎外數件　報道廣告

發行所　東京小石川區丸山町東洋高等女學校內　人道講話會

會員募集

人道講話會規約

一、本會は教育、宗教及び道德に關する講話を直接又は通信に依つて聽かんと欲する者を以て組織す

一、本會本部を東京市小石川區丸山町東洋高等女學校內に置く

一、本會は文學博士村上專精氏を推して會長とし、其他幹事一名事務員若干名を置く

一、本會は本會の目的を達せんがため毎月一回講話會を開き雜誌『人道講話』を發行す

一、本會は何人をも選ばず入會を許す

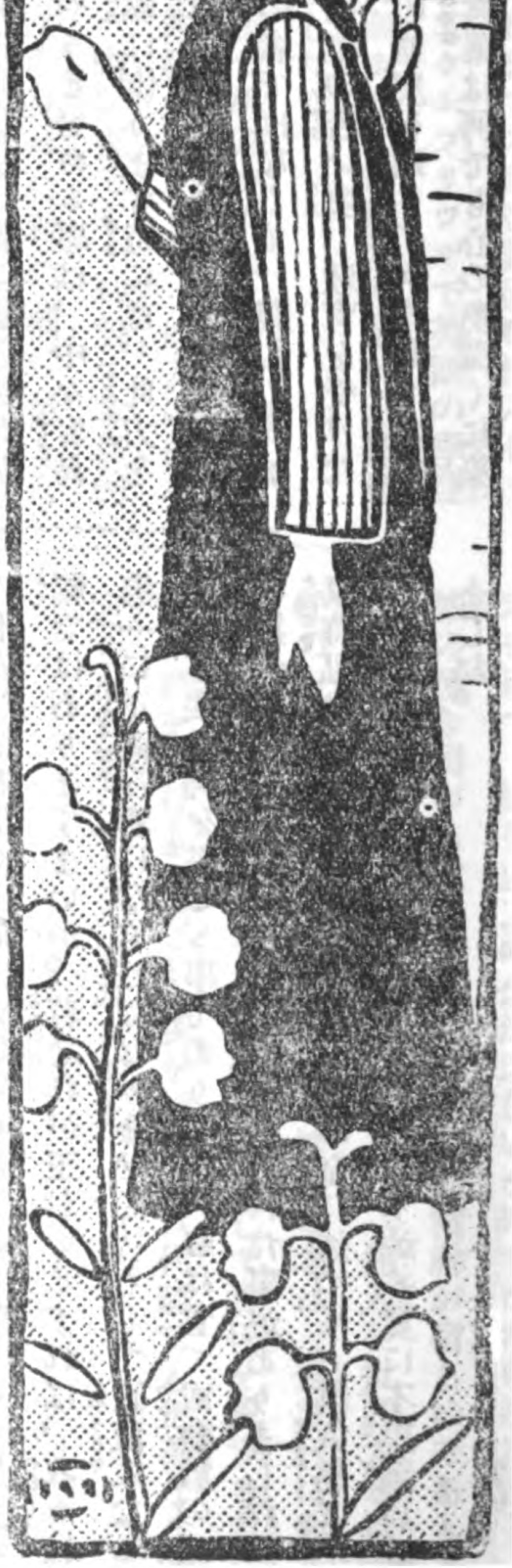
一、本會に入會志望の者は住所姓名を記し、壹ヶ年以上の會費を添へ本會本部に申込むべし
　但し會費一ヶ月金五錢一ヶ年金六拾錢とす（爲替は巣鴨局指定の事）

一、本會々員には毎月一回雜誌『人道講話』を無代にて配賦す

人道講話會

振替東京二〇三二四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



神を畏れよ

安井哲

「獨を愼む」と云ふは實に味ふべき言葉であります。殊に廉耻心が次第に減少して誘惑の擒となる人々の多い今日では、一層深く此言葉の意味を感せずには居られません物質的の慾望にのみ驅られて、向上心などは絶無であると云ふ人は取除けとして、幾分か善なる者となり、正しき人とならんと、熱心に願望する人々でも、常に良心の命令通りに行爲すると云ふ譯にはまゐりません。若そんなに容易く善事ばかりが出來得る者ならば、世の中には恐らく不良な者はない筈であります。時には神を信ずる人にでも、又教育に從事する人にでも、詐欺の樣な罪惡を犯す事があるのを見ても、向上する事の中々困難なる事が解りませう。其故に吾々は常に理想的の我に近づかんと努

力せねばなりません。世には努力奮闘を以て單に逆境に處する時の仕事の樣に考へ、「私は最幸福な位置に居りますから何も努力する必要は御座いません」と云ふ方もあります。併人間に最價値のある心の狀態は努力で、學問するにも一生懸命になり、職業に從事しても出來るだけの力を出してするといふ所に、其人の價はあるのであります。併此努力も時あつて力の弛む事があり、終には勉强せずに能く出來る工夫、骨を折らずに成効する計畫をする樣になるのは、吾々が自他の經驗で明に知る所であります。

そこで此努力を弛ませぬのは何であるかといふ事が問題でありますが、中には自分の意志さへ强ければ、常に此狀態が保てるといはるゝ方もあります。併人の見る所でも、見ぬ所でも、誘惑の中でも、平和に見ゆる所でも、常に變らざる熱心と願望とを以て、向上前進しやうと努める事は、中々容易ではありません。私は自分の實驗に依ります時には、此力を常に發動させる本源は、神の認識であると思ひます。併此神は我より遙に隔つて存在する所の者ではなくて、親しく我と共に在る所の者であります。私は年の若い頃、教育を受けた或先生を深く信じ、絕對的服從の態度を取り、何卒して其方の樣になりたいと、其先生の御言葉は何でも心の奧深くに染み込んで、其當時大なる感化を受けましたが、併終に人間の

（二）

力には限りのある事を覺りました。悲しみの時でも、喜びの時でも、如何なる場合に於ても、常に不變の同情を得ると云ふ事は、人間には望めません。故に吾信じた人の事を思へば其刺戟に依つて何時でも心を正しく保ち得るかといふに、其れ程强い感化力があるか否かは疑ひであります。併我と永遠に離す事の出來ぬ不變萬能の神を思つた時に、我々は眞の服從を感じ、心の淸さを覺ね、忽ちにして正直で且謙遜な態度になる者であります。

利慾のみに耽つては幸福な世渡りは出來ません。「ごまかし」主義に働いては眞の成効は望まれません。一時限りに消ねて行く者に何の賴む所があつて、吾々は時に全心全力を注ぐのでありませうか。淸く、正しく眞面目な生活をして、心に不安な情もなく、常に滿足安心して暮す事こそ、最上の幸福ではありますまいか。若之れが正しいとすれば、我々は先第一に正直な者にならねばなりません。そして正直になる最良の方法は神を畏るゝ事であります。私は曾て或會社の重役に欺かれて、不當の金を支拂はされた事がありましたが、其時私は、如何なれば此人が僅の金に迷つて、其人格と名譽と位置とを棄て樣と決心したであらうかと實に不思議に感じました。

此人にして若神を畏るゝ人であつたならば、私を欺くより

も、事神を欺いてかゝる不正行爲をする事を如何に怖ろしく感じたでありませう。私は又曾てケンブリッチで英國の學生を研究して、彼等の誠實な、勇氣ある、親切な性質が、敬神の結果であるといふ事を覺りました。

實に神を畏るゝ者は、惡に打勝つ勇氣があります。人の毀譽褒貶に心を迷はさぬ確固たる精神があります。他人の前でも、獨りでも、明るい場所でも、暗い室でも、行動するに何の違ひも御座いません。かくして我身身に神の前に僞りなきを信じて後、他人も亦我を信じます。かく永遠不變の一大精神と結び付いた我ほど、恐らく世に強い者はありますまい。

教育ある者でも、時とすれば無責任の言行を敢てして恥とも思はず、信者と稱する者でさへ、時あつては僞善の行爲をなして意に介さざる世の中では、眞に誰を賴み、誰を信じて生活してよろしいか、殆ど解からぬ事があります。誠實ならざる人は亡び、信用なき國は滅します。恥を知らぬ者に忠君愛國を叫ぶ眞情がありませうか。眞に國家を愛する者は、先己れを僞はらざる者でなければなりません。

世には自ら神を識らずして、神を畏るゝ人を笑ふ者があります。退いて吾自身の心を反省なさい。果して潔くありますか。果して正直でありますか、果して誘惑に打勝つの勇氣がありますか、又果して謙遜でありますか。世には又神を畏るゝ者を以て、國を思ふの念が乏しいと評する者もあります。熱誠の湧き出づる處に、果して愛國の精神が宿らぬでありませうか。自ら神の何たるかを識らずして、他人を批評するは無責任の行爲であります。常に神を認むる者は、吾言行に對して常に責任を感ずる者であり、神に對して責任を感ずる者は、能く獨を愼む人であり、獨を愼む人は何時でも正善なる道を辿らんと努力する人であります。

▲渡米して得たる感想

澁澤男爵夫人

斯様な繁忙な生活をして居りながら、日曜日には必ず家族打ち連れて教會に行き精神を養ひます。此の一つの事が米國人の人格を高め、良い國風を作る源になるのであると存じます。婦人が尊敬されるのもこれから來るのでございませう。米國が日々進歩するのはこれ等の力があるからと考へます。私共も此の良い風を學んで行つて參らなければ、世界は進むのに日本は遙か後の方に取り殘されて仕舞うだらうと、嗚呼がましいやうですがさう思ふのでございます、それも米國と違ひ婦人の申す事はなか〳〵通らぬ今の有樣でございますから、どうか同じお考の方々と心を合せて少しづゝでも悪いと氣附いた處は改め、良い風は學んで參りたいと願ふのでございます。（家庭）

婦人に關する歐米の諸問題

三澤糾

少くとも一夫一婦の結婚制を執る社會では、男女の人口が平均を得て居ることは、其安寧と幸福と健全との一大要件であります。最も望ましい狀態をいへば、男子の人口が少しく女子の人口よりも多い狀態であります。何故ならば、女子の成熟期は男子よりも三四年早く來るのでありますから、同じ人口の中に於て、結婚し得べき女子の數は男子よりも多くなる譯であります。天然自然の配劑は男女の出産數を粗同じからしめて居るのでありますが、分娩時及び嬰兒期に於ける死亡の數男子の女子に超ゆること多いものでありますから、自然に放任した社會に於ては、女子の人口が男子に優さり勝である。そういふ理由かどうか、未開の時代未開の社會では、隨分殘酷に女子の生兒を殺し棄たものであります
また或學者は營養の豐かな家庭及び社會、母體の勢力が父體にまさる夫婦間には、多く女子が生るゝとも言つて居ります
移住が男女人口の均衡を失せしむる原因になることは、言ふまでもない。兎に角、男女人口の均衡を得て居ることを通則とする社會が其均衡を失した場合には、今迄と異つた種々の變態現象のあらはれるのは、怪むに足らぬ事柄でありましやう。八丈女護の島、さては琉球の奇風は、滑稽話の種になつて居り、米國の所謂女尊男卑の習俗は、歐洲人の譏笑をさへ買つて居るのでありますが、これらは皆男女人口の不權衡に本づいて居るのでありまやう。

今日世界の文明國で、女の數が多過ぎて困つて居る社會が二つある。それは卽ち英國と、米國の東北部とであります。しかるに今日の所謂婦人問題といふものは、何處で一番盛であるか、卽ち何處で一番重大なものになつて居るか、一番數多くあるかと言へば、此二箇處のやうである。其反對に女が

足りないで困つて居る社會は、米國の西部鑛山地方、濠洲其他の新殖民地でありまして、其處には他に見られない種々の事柄や風俗があるやうであります。かやうな譯で、私共が歐米の所謂婦人問題を十分に理解するには、其根底に横はつて居る男女人口の不均衡といふ一大事實を忘れてはならぬ。勿論こればかりが今日の婦人問題を生んだ唯一の原因であるとは申しませんが、少くともそれが主な動機所縁の一であると信ずる。そこで如何にしたらば此不均衡を直すことが出來るかといふ事は、また一個の重大なる問題でありまして、多くの學者は男女の別が如何なる原因に由つて生ずるか、何時如何にして定まるか、吾々は果して人爲的に之れを左右することが出來るものかどうかを研究して居ります。もし此研究が十分に其目的を達して、吾々人間の意志を以て勝手に女子もしくは男子を生むことが出來、一社會内の個人また其社會の需要に省みて其生殖を左右して行くまでに進歩したならば、移住の支配と相俟つて、常に兩性の均衡を保つて行くことが出來るのでありましやう。しかしかくの如き時代はまだ中々前途遼遠なことだろうと思はれます。

女が多過ぎて有り餘る結果は、どうしても一生不婚の婦人を多く生ずることになる。かやうな婦人は通例獨立の生計を求め、之れを立つるに必要なる職業を執らねばならぬ譯である、また女が有り餘つて居れば一旦結婚したる婦人が夫に死別れた場合に再婚が六ケ敷なる。それから自然一般結婚の時期が遲くなるといふ次第で、これらも獨立の生計を營み、若しくは自ら汗してかせぐべき婦人を多くする原因となる。かやうな社會では、よし結婚の希望豊かなる婦人と雖も、何等か腕に覺がなくては不安心と言ふ感を起すやうになる譯であるし、周圍が皆さういふ氣風になつて職を求め、自らの力に食むといふ場合には、其必要のない者までをも金儲けに馳るのは自然なので。此處に所謂婦人の實業界侵入、婦人職業問題なるものが起つて來たのであります。婦人の實業界侵入は、決して歐米の社會が喜んで居るところではありません。其結果は男子の勞銀を低くゝする、即ち其高上を妨げる、從つて之れをして一家を支ふるに苦ましむる。從つて之れが結婚を妨げ、既に結婚したるものゝ家庭の安寧と幸福とを害することになる。更に婦人其人の身に取つて考へて見れば、男子と競爭して今日のやうな實業界に入ることは、其心身の健全を損うものである。また彼等をして其特有の領土たる家庭を閑却、忘却せしめ、且つ之れが圓滿充全なる統治に對する準備と修養を缺かしむるものであるといふのでありますが、どうも此大勢は中々容易に沮めることが出來ますまい。結婚したくともすることの出來ない婦人が多いのだから致方がありま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せん。たゞ實際政策として行ひ得るのは、幾分其弊を和げることで、之れに對する方法としては、勞働界に於ける男女の領域を別つこと、女子の從事する職業をして成べく其性に適するものたらしむること、其勞働の時間、場所、其他に於て特に婦人衞生に注意し、よくこれが身體を保護すること、工場其他多く少年女子を使用する所に於て、婦人が將來家庭の務を執る上に必要なる知識技能を授けしむること等であります。勿論今日の處ではこれも滿足には行はれて居りません。

多くの婦人が金儲の爲に種々の職業に從事するやうになつたに就いては、成べく多くの報酬をえやう、若しくは品のいゝ仕事しやうと志すのは勿論であり、それにつけては、敎育のあるものが無いものに優つて報酬が多い、若しくは品のいゝ仕事につけるといふは、自然でありますから、此處に於てか女子敎育が盛になり、諸種の職業學校なども勃興して來たのであります。女子が獨立の生計を求めて從來男子の占めて居つた職業界に侵入するに當つて、第一に攻擊したのは敎師職でありました。そして米國などでは、小學敎師は殆んど皆女子といふ有樣になつて仕舞ひ、中學敎師も東部では過半女子であります。それで師範學校は無論のこと、今迄の女子大學は、敎師養成に適した敎育、卽ち一種の職業敎育を施して居たものだといふ評さへあるのは、無理ならぬことであります。米國でも英國でも中等敎育に從事する敎師は大抵大學の出身者でありまして、米國の女子大學の卒業生に就いて取つた統計に據るに、其半數以上は結婚して居ないのを見ても、女子大學が一種の敎員養成所となつて居ることが分る。かくの如き職業的敎育、獨立の生計を營まんとする婦人に適した敎育が、女子の高等敎育の正系になつて居て、それが下級の女子敎育までをも風化して居ることは、彼國の識者が喜んでゐない所であります。それで近來は英米でも、裁縫料理洗濯等家庭の婦人に必要なる技能を小學校へ入れるやうになりましたが、少數の學者は女子の中等敎育及び高等敎育をも家庭の婦人、卽ち良妻賢母を標準にしたものにせねばならぬといふことを主張して居ります。彼等は今迄の女子敎育を以て單に男子の敎育の眞似をしたものに過ぎずとなし、今後に於ける進步は、女子敎育の獨立、卽ち之れをして女子特有の天性と、其の特殊の要求とに應ずるものたらしむるに在るといふのであります。

米國に於て、其小學敎育が既に殆んど女子の手中に歸し、中等敎育までが漸く之れに移らんとする形勢を示して居るのは容易ならぬ一問題であります。これも今日のところ中々防ぎ難い大勢でありますが、それが健全圓滿なる國民敎育を圳する所以でないことは、常識で考へても分ることでありましや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う。男子の職業と娛樂とが殆んど全く家庭以外に在つて、其家に在る間は極めて少い爲め、子供の家庭敎育は悉く母の手に依つて行はれて居る今日、學校に於ても其敎育凡て女敎師の手に存すとせば、男子の生長發達に對して、男子の敎化訓練は更らに加はらぬことになる譯である。

今日の學校敎育は女子の天性に適合せず、其特殊の要求を十分に充さぬのみでなく、一般男子の要求をも充して居らぬやうに見ゐる、概して言へば學者的だ、即ち余りに文字の學書物の學に偏して居る。それで書物上の學問を好まぬもの、之れで以て世に立たぬものは、餘り長く學校に止ることを好まぬ、また止つて居つては困るのである。敎育は人生に對する準備であるといふが、實地的の仕事、特に或種の技能で世に立たうといふものは、永く今日のやうな學校に居れば居るほど、その準備を缺く譯であります。女子は受動的なものでありますから、少々面白くない、不滿足な敎育をうけて居てもそれで辛抱する、且つ狹隘ながらも學校は尙家庭よりも廣い空氣を彼等に與へるのでありますから、却て之れを喜ぶ形跡があるかも知れませんが、男子はさうでない。其勃々たる事業熱、職業熱は、十五六にもなれば、もはや彼等をして究屈なる敎室內の室居に安んせざらしむるのであります。況んや其學校の敎師が悉皆、もしくは過半女子であり、學校內の空氣、管理、訓練、敎授、凡て女子めいて居るに至つては、彼等はとても、男兒的自我を自覺したる靑年の堪ゆるところではありません。かやうな譯で、米國では、小學校の上級から中學校になると、男生は段々と廢學して、女生の數が遙に多くなるのであります。中學入學の際に於ける男女の比例は約七十五に對する百でありますが、中學校の最終の級では、女子の數が六分通も男子に超ひて來るといふ有樣なのです。西部諸洲では、大學に於てすら、女子の數が段々と多くなつて男子を壓倒せんとする傾向があるので、女子の入學數を制限した大學もある位です。

一方にはかくの如く女子の敎育が普及し、他方にはまた諸種の獨立の職業が女子に對して開かれることになつて見れば主從關係を以て人に雇はれ使はれる下女仕事などを希望するものゝ乏しくなるのは、自然のことであります。下女問題、實に之れは歐米特に米國の家庭が苦んで居る一大事件であります。希望者が少いから、賃銀は益高くなる。賃銀が高くなるはまだいゝが、高い賃銀を出しても、正直にして善く働き、性質も素直で品行の正しいといふものは中々ゐられない。米國のやうなところでは。自國民の中から下女などに來るものが滅度にないから、從つて外國からの移住民を使はねばならぬ。否事實外國移住民の方が、素直で、尻軽で、權威振ら

ないで、餘り外出しないで、餘程使ひいゝのである。しかし外國移住民を使ふには、第一國語の未熟もしくは無知といふ不便がある、第二には米國の家庭風、料理などに慣れてゐない、これらを皆教へてかゝらねばならぬ。そしてやう〳〵慣れさした頃には、高い賃銀をゑられる家へ移る、結婚をする或は金をためて故郷へ歸るといふ次第である。素性の分らぬといふ危險を冒すは、勿論覺悟の前でゐなければならぬ。もう一つ外國移住民で困ることは、彼等の多數者が舊教國から來て居るため、新敎の家庭では主婦の間に感情の融和が十分にない、また米國人と歐洲人との間には相互の輕蔑があり勝である。

しかし乍ら英米の所謂婢僕問題については、下女の方ばかりを責むることは出來ないやうに思ふ。彼國の下女下男と主家との關係を見れば、實際多額の賃銀を貰つても中々辛抱づらいものである。中等以上の家では中々階級的感情が強い。主婦が下女下男に言葉をかけるのは、大抵用事のある時のみである。彼等は別室に寢起し、別室に食事をし、主家の家庭生活とは其仕事をする外に更らに關係のない生活をして居るのである。物見遊山は無論のこと、主婦が訪問所用に出掛ける時もお供をするなどいふことはない。主婦は下女の縫物讀み書きの稽古を見てやるではなし、嫁入其他先きのことまで見てやるといふこともなし、そしてセチ辛い世の中であるから出來る丈け多くの仕事を一定の時間内にさせやうとする。かくの如き人情の這入らぬ勞働關係であつて見れば、束縛の少ない他の勞働を撰むのは當り前である。要求せられる仕事、約束以外の仕事は寸分でも仕まいとするのは、敢て責むるに當らぬ。かくて下層婦人に取つては最も教育的なる家庭勞働が益厭はれて、賃銀は極めて低廉で、心身の發達には甚だ害の多い工場や商店の勞働が繁昌するのは、社會的に考へても歎くべき次第であります。

かやうな次第で、下女にはなりたくなし、外の下級の勞働では中々獨立の生計を營む丈けの賃銀をゑられずといふ所より、歐米の都會にも隨分醜業に衣食するものが殖ゑたといふことである。其殖ゑた所以を他方面から見れば、生活が贅澤になり、人心が利已的になつて、家庭を持つことを厄介とし困難とする未婚男子、不婚男子が殖ゑたからでありましやう。歐米婦人特に英米婦人の活動といふこは、隨分吾々日本人の驚嘆に値するものがあるのでありますが、これも全部感心すべき譯のものでなく、一概に羨望模倣すべきものではなからうかと考へます。一には矢張未婚婦人の過多に原いた現象でありましやう。婦人が或は教育界に、或は實業界に、或は學術界に、或は社會改良事業に、或は藝術界に男子と相並ん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で活動するに至つたのは、婦人にかゝる力量が出來たこと、自由と尊敬とが與へられたこと、また特に婦人を要するものがあることを示す譯でありますが、更に裏面から觀察すれば多くの婦人が其本城たる家庭に主婦たることの出來なくなつたところから起つて來たものではなからうかと思はれる。藝術界の婦人は多少別物といふ觀もありますが、其他の職業、其他公共的活動は、婦人に取つてたゞ假の仕事、已むを得ないのでの仕事で、男子の如く之れを一生の本氣仕事として、其中に滿足を得て居る姿は見ゐません。もし凡ての婦人が滿足な家庭を持つことが出來たならば、所謂歐米婦人の活動といふものはなくなつて仕舞ふに相違ない。

近年英國で婦人選擧權獲得運動の如きも、一部は未婚婦人の增加、特に教育あり、職業ある未婚婦人の增加を以て說明することの出來る現象ではありますまいか。彼等は教育がある、それゆゑ、無教育のものにまで選擧權を與へて居る社會では、其參政權を主張する理由が立つ。彼等の或物は獨立の職業を持つて租税を國家に拂つて居る。それ故に、意志の代表せられざる納税の不法を楯に取ることが出來る。彼等がまた諸種の惡風俗に對する男子の冷淡、法律に於ける男女保護の不平等貧弱老幼に對する保護救助の至らざるに憤慨するのは無理ではない。彼等の政權を得んとする動機は、淸く正しく、彼等が時に狂暴に陷るの擧を採るのは、同情すべき點がある。吾々が若し明治初年の政黨者に贊歎の辭を惜まぬならば、選擧權獲得の爲に戰つて居る英國婦人に、また慥に吾人の贊歎に値するものがあります。しかし乍ら、此運動の狂熱の根底には、未婚婦人及び不幸なる家庭の主婦となつた婦人の衷心の不安定が横はつてはゐないかといふことは、私の窃に疑ふ所であります。私はそれだからとて此運動に從事する婦人達を輕蔑も憎惡もしないが、かゝる運動を挑發した社會的原因は、餘り羨むべきものでなくして、却て悲むべきものであると思ひます。

家庭の勢力

江原素六

母親と子供の關係

家庭訓育の貴重なることは、日本支那に於ては、古しへより是を論じたのであります、支那に於ては漢の劉向といふ人が列女傳といふ書を著はしました其書には未だ子の生れざる時、即ち胎教とて、既に懷妊するや、直ちに教育に精神を注くので有ます。其一例を陳べますれば、古しへは、婦人子を妊めば、寢ぬるに側せず、坐するに邊せず、立つに蹕せず、

邪味を食はず、割正しからざれば食はず、席正しからざれば坐せず、目に邪色を見ず、耳に淫聲を聞かず、夜は則ち瞽に詩を誦して、正事を曰はしむ、此の如くなれば、生る子は、形容端正にして、才人に過ぐと記して有ます。

これを今少しくやさしく申しますれば、婦人が懷妊いたしましたならば寢るには、片寢をなさず、坐するには、横坐りをせずして胎兒の安全を保護し、且つ立つに片足立せぬと、即ち跟け轉げる等、萬一危險を避くる樣に注意をいたし、又其食物の如きも、邪味を食はずとて、平生食馴れぬものは容易く食はぬ樣にするのみならず、割目正しからずと申て、異樣の調理法のものは食はずとて、大に衞生に心を用ひ、席正しからざれば坐せずとて、坐蒲團等に坐するにも、曲りたる上に坐らず、目には異樣のもの、又は殺伐的のもの、奇異なる者陋劣なる書籍は之を見ぬ樣にして、倘ほ耳には淫聲を聽かず、即ち不眞面なる談話、猥褻なる音曲などを聞くことなく反つて、高尙優美なる音樂、若くは講談等を聽く樣にするといふので有ます。此の如き心掛けの婦人によりて、生れたる子は、必らず形容端正にして、才智衆人に過ぐるといふので有ます。日本普通の社會にも、曾て種々なる方便によりて、胎敎的風習が有ました。たとへば、片足立すると跛の子が生れる、火事を見ると、痣のある子が生れるとて、即ち火事と聞ては輕燥の擧動を戒め、殊に禽獸を屠るを見、又は不具者の見世物等を見ることは之を忌ましめ、塗物の上に熱き鐵瓶又は藥鑵等を戴すれば兀頭の子を生む、葱辣韮等を食すれば、腋臭の子を生むとて、或は情緒に、或は感情に銘せしめて、進退動作飲食に注意せしめたものであります。

然るに維新以來、從來の風習は玉石ともに、之を棄つるの勢となりまして、夫れが爲め時として、不慮の禍を招ぎしことすら一二にして止まらないので有ます、日外の新聞に有ましたことで、皆さんも御承知で有ませうが、或る學士が、妻君を迎へて、夫婦禮讓甚だ麗はしくして、實に理想的一對の若夫婦で有ました。或る時其新婦人が戯れに前庭のブランコへ乘られました、其夫も亦頗る興味を感じつつ、頻りに其ブランコを動かして、婦人のいやがるに興じて、益々戯ること、恰かもイザクが其妻リベカと嬉戯ることをペリシテ王アヒメレクの羨み見たる有樣に似ておりました。然るに、いかなるはづみか、婦人は手を外して、前へ落るや、懷妊の子は流産となりて、切角の初子は死なれました。故に君子は、危きには近かよらぬのみでなく、妊婦も亦危きに近よらぬことが大切で有ます。

さて前にも申陳べました通り、子供は四五歳までは、大切なる敎育時期だといふことにつき、金森夫人の實驗談は、大

に興味あることで有ます、即ち夫人の實驗によれば、子供は言葉を以て敎へることは實行はせぬが、行つて見せることは、何でもやると曰はれたことであります。私の近所に、或る家の若き婦人が、毎朝甲斐〳〵しく、入口の前の掃除をいたされますが、其家の三歳位の子供が、塵取へ塵を箒き込み、箒で押へつつ、塵箱へ入れる眞似をして遊んでおります。若し彼樣の小供に、左の手に塵取を持ち、右の手で塵を箒き入れ、其塵の風に飛ばされぬ樣に、箒で押へて、塵溜へ捨ろといつても、なか〳〵分るものでは有ますまい。

フレーベルの人の敎といふ書に、日傭取の子で二歳になるかならぬ者が、父の馬を牽いて居る、子供は落付き拂つて、静かに馬の前へ歩むで參ります、折々振り返りて、馬を見る有樣、現然たる馬士で有ります、即ち子供は自分が轡を持つてゆけば、馬は後から隨いて來る筈だと思つております。父が途中で人に逢うて立ち話をすると、馬も同じく止りました。子供は、馬が歩行かなくなつたと思ふて一生懸命に轡を引張ります。即ち生れてより家庭に於て父の馬を扱ふのを見ておるからで有ます。私が常にいふので有ますが、家庭と學校の連絡といふことは大切では有ますが、しかし今日の所謂連絡といふことでは、未だ充分ではありませぬ。家庭は實行を訓育する所學校は知らせる所であります、この知らせることと、實行することと、調和聯絡することを要するので有ます。

近頃動物愛護會といふ會が有まして、凡て動物を虐對することを防ぐ會で有ますが、就中牛馬に過重の荷を負はせて、坂路などで、鞭ち罵る如き、殘酷の行爲を防止せむとする會で有まして、私も其會員の一人で有ます。しかしながら、牛馬を飼養する家族の風が改まりませぬなら、二三歳から虐對を目擊して居りますから、虐對が正義である、當然である如く思つております。故に愛護會の目的を達することは、馬を養ふ家庭と相竢つに非れば容易に其目的を達することは出來ますまいと存じます。然らば子供はいつ頃より家庭の感化を受け初むるかといふことはたしかに分りますまいが、先づ子供の五感の發達の順序を考へて見ますれば、ダーウィン及其他の學者の說によりますと、小兒が生れて、九日目には、蠟燭の火をぢつと見詰め、四十九日目に、うつくしき糸の房を見せしときは、手足の運動を全く中止して、熱心に見たと申して有ます。即ち小兒は、第一に視力が發達して、乃ち四十九日目にはうつくしき房糸を手足の運動まで止めて之を見詰めたる如く、子供の目には、母親の大小各種の行動は、蠟燭の火よりも、五色の糸よりも、眞に珍らしくして、更に熱心に見詰るので有ますれば、母親の性質の良否が、其子の運命に關することは、明かなことで有ます。

既に一年を越しますと、愈視覺は發達いたしまして、たゞに見るばかりでなく聯想的智能、及び實行的欲望の開發する時で有ます。私が今より二十九年程以前に、激烈なる肺炎衝を患ひまして、醫者が來まして、胸や其他の所を敲きては、聽診器を當て心臟肺臟の音を聽きます。其頃の聽診器は、今日の様にゴムの紐をつけて、其先を兩方の耳に挿むのでは有ませぬ。小さき喇叭形の機械の一方をば病人の心臟肺臟等へ當てて、他の一方に耳をつけて、其音を聽くのでした。其頃私の次男が、一年と四ヶ月で有ましたが、母の膝に在つて、醫者のすることを、ぢつと見つめておりました。兩三日の後ち偶四五人の見舞客が枕許に集りました。次男は臺所より、ヨチ／＼しながら、吹竹を持來りて、やがて私の夜具をまくれといふ風でした卽ち其吹竹を私の胸へあてて、胸の音を聽かんといたして、一同を非常に笑はせました。卽ち見たことは必らず行ふので有ます。其最も多く見られるのは、母親であります。而して聽覺の方はいつ頃より發達するかといふと、ダーウインの研究では、生れて六十日目に父の嚔に愕き泣きしことがあつたが、其れは音響の反射運動といふもので、眞の聽覺ではありませぬ。大抵の子供は、生れて七十五日目位から聽覺が生ずる者だと申して有ます。テーンといふ學者の實驗も、同じく其子が生れて二ヶ月半の時、其祖母が名を呼

びしとき、始めて祖母の方へ面を向けたと申ます。始は見るばかり後ちには聽くと見るばかり後ちには聽くと見ると調和して、見しことは必らず行はんといたし、聽いたことは必らず曰はんとするので有まして、愈々智識の開發が、盛んになるので有ます、而して其言行の一大模範も智識の開發も、悉く母親の智德が大關係するので有ます。故に眞正に其子の幸福を願ふならば母親たる者は、大に言行を愼しみ自巳の智德を練磨せねばなりませぬ。此の如く目と耳の發達はいよ／＼兒童智識の開發時期で有ます。此際母親たる者は、其開發を促がすことと、開發を害せざることに注意して、强て助長することは避けねばなりませぬ。促すとは始めて齒の生せむとする時生齒熱が强きときは、其齒の生せんとする齦の皮を少し破つてやるごとくすることで、程よく迎へて智識の開發を促かすことは大切で有ます。卽ち無理に智識を開發せぬ樣に注意することで有ます。

私の宅に、三歲になる孫が有ますが、或る時、小さな兎を貰ひました。勿論死んでおるので有ます。下女が戯れに、其孫にぼつちやん、これは何んで有ますかと問ひました。容易に答へませぬ。深く／＼考へましたのち、區役所へ持つてゆくのだと答へました。これは私の隣りに區役所がありまして、乳母に負はれて區役所の門前に遊ぶとき、屢々區役所へ鼠を

持來るのを見ておりまして、遂に死したる小さき動物の記憶と聯想して答へたので有ます。其後また、私の恩人の家で、初孫が生れました。私は頗る憤發して、大きな鰹節の折を買つて參りした。この時にも下女は、又ぼつちやんこれは何んですと聞きました、今度は容易く答へました。即ち赤さんをいれる箱だと、まことにいんぎの惡いことを申しました。則ち乳母が輿やの見世先へ立ちて、たま〳〵赤兒の棺の出來上りたるものを見せて、ぼつちやん、これは赤さんの死んだのをいれるのであるなどと無意味にはなしたることをよく記憶しておつたので有ます。即ち見聞に觸れしむるものによつて、大に開發の利害に關するので有ます。其故に禮記内則篇にも、凡そ子を生むや、諸母と可者との内、必らす其性質の寛裕、慈愛恭儉にして、言葉寡き者を擇んで子の傅とすべしとて、僕婢のことまで注意してあります。然るに近頃流行する活動寫眞の中には、時として殘酷殺伐猥褻のものも有ます。然るに若き夫婦が、子守に子を負はせて之を見物するごときは、子供の爲に利益とは思へませぬ。先頃も有名なる學者の奥方が、子供をつれて芝居を見ましたが、其子供が咽を突きて自害する眞似をせむとて、物指を口中にさし入れますや、其脇に在つた子供が無意味に、その物指の先を強く打ちました爲に、其子は遂に死なれました。即ち目撃によりて得る力、即

模範は實行上の教訓にして、到底口舌にて教ゆる能はざることを教ゆるので有ます。故に惡しき模範の前には、いかに立派なる教訓も其効力を失ふに至るので有ます。故に苟も自己の行爲が其口でいふ所の教訓と、相異つておりますならば、其教訓がただに無效なるのみならず、却て子供は反感を起すもので有ます。即ら父母若し口にいふ所と、身に行ふ所と相反する時は、小兒は直ちに其父母の言行反對を看取するので有ます。盗める錢を袖にして、信實德行の事を説教するも、其教師は一錢の價値を有せずと、品行論に在る如く、口舌のみの教訓は、殆んど其效果を奏することは不可能で有ます。

此の如く、子供訓育の責任を、母親に求むるものは、蓋し大なる理由が有からで有ます、即ち母の慈愛は、天理人情の必然なるものにして、最とも見はられて見易きものであり、母の慈愛の其子に沾ひ感ずるもの、時として然らざるはなく、人の始めて、此世に出る首途に逢ふものは、母の慈愛で有まして、母の教訓が之に伴なふので有ます。而して善き母の德善の感化は、其勢の大いなること、小兒一生の末途にまで達し、久しうして已ざるもので有まして、人世の海に始めて舟を泛べ、岸を離るるや、多少の苦勞、多少の憂愁、多少の誘惑に遇ふことは、人々の必らず免かれざるもので有ます。此時にあたり、其母既に死し、其骨已に朽と雖ども其母を追憶

し、自ら慰籍するので有ます。凡そ人小兒の時、其母より種を受け、根を生じたる、純清善良なる意思想念は、次第に生長し、發現して善行となりて、一生已むことなく、其母沒後に及ぶまで永續するので有ます。蓋し其母已に世を畢て後一物を斯世に遺すものなしといへども、其慈愛、其敎訓は、其子の紀念に存するもので有ます。エメルソン曰く、國の開明は、善き婦人の感化なり、故に婦德の長短を觀て、邦國開明の度を知るに足れりといふことが品行論に記して有ます。即ち善良なる母親たらむとするには、朝夕日々の行狀に大に注意せねばなりませぬ。

　私が或る時有名なる畫工に蟹を畫きたる油繪を貰ひました私は其上へ粗末なる歌の樣なものを書て、ある女學生に贈つたことが有ます。即ち其歌の樣なものとは、親蟹の其身は横に這ひながら子らにはつげぬすぐにあゆめと、といふ句で有ました。これは獨乙のザルツマンといふ、大敎育家が蟹の横這びといふ著書につきて、故大村仁太郎氏の著はされたる書に、親蟹が二三の子蟹に向ひ、訓誡して汝等は是より決して横に歩むではならぬ、必らず正しく眞直にあゆむべしと、然れども親蟹にして依然として、横ばひするならば、子々孫々連綿として横這ひするのであります、即ち女學生が學校に於て、育兒法、又は家政學を學びましても、到底口先の指圖や、敎訓にて、子供の敎育は出來るものでは有ませぬ、即ち實行が大切であります。

　世間稍もすれば、歐米は物質的にして、就中北米合衆國の如きは、拜金宗の最とも甚しきものなりと申す人が有ますが、これらは全く皮相の觀察で有ましてかの駸々たる進歩發達の基礎は、全く家庭訓育にあるので有ます。例へば北米合衆國に於て、多數の僕婢を使ふ有數の資產家でも、其子女を幼稚園に送るに、往きか返りか、必らず母親自から之をなして、往返とも下女にまかせることは殆んどないと申します。

　終りに臨んで一言いたし度ことは、小兒の視ることと聽くことと言ふことが發達する時に際して、數多注意すべきことのうち、先づ二つのことを申し陳べますれば、第一父親母親とも凡て言語を愼しみ且つ正確に言語を使ふ樣にすることで有ます。小兒は正確に言ひたくも、舌が轉らぬので有ます、然るに兩親が、小兒の眞似をして、片言をいふことは、小兒の爲には不深切で有ます。目今高等女學校の敎師でも日常の對話を、正確になし得る者は極めて少く有ます。しかし小兒に言語を敎ふるつもりでなく、ただ自分が正確の言語を使ふ樣にすることで有ます、第二敬虔の模範を示すことで有ます。小兒は父母兄弟姉妹朋友と交る間に、自己と自已以外の凡ての者と、一致結合せしむる原動力たる、共通の感情を有し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

即ち人は個々孤立の如くなれども、感情の決して孤立のものでなく、共通一致の神性あることを微かに感ずるもので有ます。即ち宗教心とも申すので有ませう、此時に當り樂しき時にも、苦しき時にも、寂しき時、怖ろし時にも、信頼するに足るものあることを、行爲を以て子供に示すことで有ます。例へば子供を寢かさんとするとき、小説を讀みつつ小兒に乳を吸はする母親も有ます。敬虔なる母親は、靜かに神佛を仰いで、只管其子の保護と、幸福を祈るので有ます。かかる母親は小目を覺まして樂しそうに笑つておる小兒を抱き上げながらもさも嬉しそうに、惠み深き神佛が、小兒に安息を與へ、力を與へ給ふことを感謝するので有ます。此の如き敬虔き母親の感化は、小兒生涯の幸福の源となり、老年に及ぶまで、母子の愛情は、益々濃かになるので有ます。小兒の時に、敬虔の心を與へざるものは、小兒の手より、大なる寶を奪ふより殘酷だと申すことが有ます。

ゆきあたりばつたり集

在英　内ケ崎作三郎

十　すゝけ顔と眞黒の手

これも東ロンドンに滯在中の出來事。ベスネルグリーンといへば有名なる貧民の巣窟。日曜でも大仕掛けの露店が繁昌してゐる所、土曜日の夕方までに日曜の食料を買ひ取ることの出來ぬ貧民の細君達は翌朝の露店に小買ひに出かくるので、日曜は淋しいとさへ不平をいはるゝロンドンの一角に、これほどばかり目を驚かす壯觀を呈する所、貧民の生活狀態はこれにて大抵想像が出來るのであらう。この眞中にオックスフォード館といふて、オックスフォード大學の有志者が維持してゐる大學殖民館がある。館長はキーブル學院出身のウールコーム氏といふ中年の牧師。今のロンドン監督イングラム博士の後を受けて、この責任ある地位に立ちて七八年間、必死の働きをなして、同館の聲望を落さない。僕の下宿してゐた家の御婆さんは、ウールコームさんは本當に立派な方です。良人が存命中は、私共の教區の會堂の牧師さんは餘りお酒が好まなので、その說敎も聞いたつて駄目だと申して、久しく禮拜出席を怠りましたが、ウールコームさんのオックスフォード館にてなさる日曜午後の聖書研究會には、缺かさず出席してゐました。ほんに難有いお方である。そのお方は未だに獨身で、親孝行で、貧民相手に何もかにも忘れてゐらつしやるといふ。僕は貧民の間にこんな名望ある人であれば、是非會見して見たいと思つた。そこで紹介狀などは持つてゐぬがそこは外國人の特權であるから、或朝同館に押しかけた。ウ

トルコーム氏は幸に在館されて、僕の來意を聞いて、我等の事業は夕方にならぬとはじまらぬ。明晩夕食前に尋ねて來たまへ。何處へでも御案內するといふ親切なる挨拶である。翌晩は遠慮せずに出かけた。ウールコーム氏をはじめ在館の大學生十數名と會食した。昨春開かれたる全英國教會大會に出席したる日本人の噂などが出た。食後は應接室にて一しきり話しの花が咲いた。午後八時半になると、これから附屬倶樂部を巡回するから一緒に行こうと促されるゝキーブル學院の一學生も同行することゝなつた。先づ同館背後の倶樂部にゆくピリアードの臺が幾個もあつて幾多の勞働者達が盛にやつてゐる。グードエヴニングの聲は一行にあびせかけられる。こん度は二三町離れたる他の倶樂部にゆく。途中で大勢の子供達に逢たが、ハロー、ミストル、ウールコームとがグードエヴニング、ミストル、ウールコームと叫ばないものはない。第二の倶樂部は質素な建物であるが。一種の體操場である。木馬がある。鐵棒がある。並行棒がある。二三十人の青年が運動してゐる。中々な元氣だ。尤もピリアード臺も幾つかはある。第三の倶樂部にゆく。それには百人近い青年がゐた。服裝もきたなし、顏はすゝけて手はよごれてゐる。この連中が皆握手をしに來たのには驚いたが、興味のあることであつた。この倶樂部の訪問者名簿をみると、五來欣造君、佐島

啓助氏等の名がある。外にも一兩名の日本人の名があつた僕も署名させられた。これから最後の「大學倶樂部」といふに行く、非常に大きな建物だ。體操場はいふまでもなく浴室までみせた。溫浴中の數名の青年は不意の見物人に襲はれて閉口の體らしい。奧の方には大きい舞蹈室がある。監督者が附いてゐて、百人近い青年男女が舞踏の最中であつた。二階にゆけば將棊を鬪はしてゐるものもある。カルタをやつてゐるもある。音樂室にゆくと女教師が七八名の青年に聲樂を教えてゐる。この教師はウールコーム氏を介して、僕に日本の聲樂を聞かせてくれとねだる。やむをえず此處でも十八番の詩吟をやつた、青年達は眼を白黒にして聞いてゐる。女教師は聲が太いとかいうてほめた。わざ〳〵依賴したのだから義理にもほめなければならぬのである。最後に會議室に入ると中年以上の貧民が五六名集りて倶樂部問題について協議中であつた。僕がオックスフォード館前にウールコーム氏と別れたのは彼是れ十一時頃であつた。かの有名なるオックフォード運動以來英國々教會は頗と面目を新にして來た、狹い信條は依然として存すれども一道の生氣は教會の全部に傳はつた。オックスフォード館は國教々會中の最も頑固なる高教會を代表してゐるのであるが、ウールコーム氏のごとき獻身的人物を有してゐる。これ僕が非國教徒に同情あると共に、國教會を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尊敬する所以である。ベスネルグリーンの公園に沿うて歸途にある時に、僕はウールコーム氏にいうた。御互の信條は相違してゐるかもしれぬ。されど博愛と奉仕との信仰は一致してゐるといふた。同氏も然り〳〵と首肯された。あゝこの面白い一夜の經驗も早や一年の古しとなつた。今これを書いてゐると色々の聯想が浮んで來る。ロンドンの霧、陰欝なる夜氣、貧民のすゝけた顔と黒い手、同時に西ロンドンの贅澤三昧の生活、混沌は尚依然として存する。たゞ進め、働け、改めよ。霧と夜との後には美はしき朝日影が照りそめてゐるではないか。

十一　思ひ出でのよい鐵道驛夫の親切

英國に來た日本人は誰でも道を敎ふる人の親切に打たれる。まづ巡査さんが親切なのが多い。半町位一緒に歩いて來て敎へるのもある。日本にも勿論親切な巡査さんが多いが、僕等を稱して「人民」と號し手帳などばかりいちくつて威張り散らしてゐる巡査さんも少くない。こんな巡査さんがあるので、一般に巡査さんは不親切だと陰口もいはれる。これは餘分の話しである。さて僕は鐵道の驛夫の親切に感じた例を書いてみたいのである。僕の一友人が永い病氣にかゝりて東海岸のローウエストットといふ町に七八ヶ月も入院してゐた。僕は三度見舞に出來かけた。同地停車場に鍾馗の出來損ひの樣な髯面の改札係がゐる。二度目には午前に着いて午後歸らうとすると、今朝來たばかりでもう御歸りかと顔に似合はぬ愛嬌をいふ。そこで友人の病氣見舞に來たので、見物ではないというて、別れた。二三ヶ月の後三度目に同地にいつた。歸りがけに又その髯男に改札された。この男僕を覺えてゐて、また御出でになつたか、御病人の樣子はどうかなどゝ聞いた。段々に宜しい方だと答へ、その親切を謝した。もう一度出かけるならば何とか挨拶するであらう。しかし友人は退院して歸朝して了つた。僕は同地に第四囘の見舞を拂ふ必要なきを喜ぶのである。もう一つ驛夫の親切を覺えてゐる。これは昨年の四月下旬、北英に旅をした折のことである。猶肌寒き夕方、マンチエスター市附近の乘換驛のプラットフォームに立つて、次の列車を待つてゐた。すると老年の驛夫が來て、何處にゆかるゝかなどと聞いて、よく時間を敎へてくれた。それから日本からは何時渡英されたかなどゝいろ〳〵の話しを持ちかけた。そのうち汽車が着いた。ありがたうというて別れやうとすると、夕方は段々寒くなるといひながら僕の外套の襟をまくり上げてくれた。何でもない事であるが、この老驛夫が忙はしい間にかゝる小い事にまで心配をしてくれたことは甘美なる思出である。これから日本にもます〳〵大勢の

外國人が行ゆくに違ひない、巡査諸君のみでない、驛夫、車夫諸君に至るまで、國民の代表者として異邦人に心切をつくして貰ひたいものである。

はきちがひ

如意生譯

エーメンデンゲン、グンデルフエンゲンの樣な寂寥しき所に於ても、又アムステルダムの如き繁華な所に居つても、心の用ゐ方で、現世の有爲轉變を悟り、假令燒鳩が空中より吾が目前に舞ひ下る樣な僥倖な事はないにしても、自然吾が運命に滿足し得るものである。

今は者、或る獨乙の職工、アムステルダムに旅行中、眞理の誤解より自然に導かれて遂に悟道した談話がある。名にし負ふ和蘭第一の都會の事とて、大厦高樓軒を連ね、海には貨物を滿載せる船舶林の如く、街頭は人々の往來忙はしく、田舍出の正直者は只恍惚として目を舞はすばかりである。

都へ入ると不圖目に影じたのは、實に壯麗な全美を盡した高樓である。故郷を出でゝ以來始めて見た美觀である。

此の男暫しが間は立ち止まつて茫然として居る。屋根を見ると烟突は六つ程もある、鴟居などもこつたものだ、はては

故郷のなづかしき父の家を思ひ浮んでくる、扉なども此家の半分程もない樣であるなど種々の空想に耽けつた末、通行人に向ひ、御國なまりで問ひかけた。オイ君、此の立派な家!鬱金香や星草などを窓に飾つてある家は何人の御住居ですか

然し問はれた男は、聞者が和蘭語を知らない樣に獨乙語は少しも解することが出來なかつた。そしてさも急用あるものゝ如く無愛想にも言葉短かに、カンニツト、フエルシタン、と云ひ捨てゝ去つた、是は和蘭語で、精密に云ふと三つの辭から成つて居る、獨乙語では「イヒ、カン、ニヒト、フエルシテーヘン」卽ち「我れ汝の言を解せず」といふ意味になるのである。併し此の正直男は之れが、自分の間に答ひて呉れた名であらうと思ふた。カンニツト、フエルシタン!如何にも金持そうな名であると思ひつゝ立ち去つた。

街より街へとさまよひて、遂に灣頭に來た。此の灣はヒツト、アイといひて獨乙ではイビセーロン港といふ所である。唯見る船舶輻湊して帆柱は林の樣だ、此男始めは、こんな珍らしい光景はとても二つの眼では見切れまいと思ふた。ふと見れば、今しも東印度から着いたのであらふ、一艘の商船盛に積荷を下して居る。已に箱や荷物の列が上へ上へと積み重なつて、尚その上に多くの荷物が轉がされ、砂糖、珈琲、米穀等の貨物は、ぞんざいに投げ落されて居る。此の男は又も

や驚いて人夫に向つて、こんなに荷物を取引してる人は何といふ方ですかと尋ねた。此の時の答も矢張り、カンニットフエルシタンであつた。

はゝ、なるほど、海上で斯んな商賣をして居る人なればこそあんな立派な家に住つて居るのだ。黄金の花瓶に鬱金香などを飾つて居るがあたりまいの事だなどと思つて居る中、そろ〳〵吾身の上に悲しい觀察を下した。世には、こんなに富んで居る人もあるが、己は何たる貧しき奴であろう。一生に一度でもカンニットフエルシタン氏の樣にありたいものだ。

知らず〳〵四ツ辻の所に來た。かなたより壯嚴な葬式行列がやつて來た。大勢の會葬者は皆黒い衣を着て靜々とねつて來る、黒い布で包んだ棺をひいて居る馬までが、蓄生ながら死人を墓場へ導くことを知つて居る樣に悲しげに歩む。其後には生前の知己朋友親戚が黒い裝の列を作つて居る。いづれも沈默して咳拂ひ一つしない。遠くより響く鐘の音さへ哀にひゞいて居る。正直者は暫し立ち去り兼ね、一種悲哀の情に打たれて、行列が過ぎる迄謹んで居つた。さて最後に步で行く一人はさほど悲んで居る風もなく、内心に相場の事を考ひ込んで居るらしく、百斤十グルデンに騰貴すれば如何程位の利益あるべきなど胸勘定して居る樣である。此の男の外套を靜かに引いて田舎者はきいた。

「御葬式の樣に御見受け致しますが、誰がなくなられたのですか、貴君がそんなに悲しさうに考ひ込んで居なさるを見れば御親友の方でしたか。」

カンニット、フエルシタン！　は答であつた、

是れを聞くと、此の善き若者は、涙をながし、曾て重かりし胸の憂愁一度に輕くなつた。憐やフエルシタン君、噫君が今有つて居る凡の財産は何か。私は貧乏であるが併し君の現在の所有よりは澤山ある。死出の衣一枚、麻布一枚美しき飾としては僅かにあざみの花位が胸の上に横はつて居るのではないかなど思ひ浮べつゝ此の男は、墓場まで送つてそうして誤解したるカンニット、フエルシタン氏の永眠の床に入るを見た。

遂に重荷を下した心地で、戻り早々獨乙語の解る旅舍に飛び込んで、平素は少しも甘くなかつた食物に舌鼓を打つて腹一ぱいつめこんだ。其後時ありてか身の不遇を嘆する時は何時もアムステルダムのカンニットフエルシタン氏と、高樓、船舶墳墓の連想が浮んで來た

（終）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少年僧正を讀む

孤峰

御伽噺は可なり澤山出來て、少年少女の樂には事缺かない。けれども大抵は十一二の小供向のもので、それから少し大きくなつて思想が復雜して來ると小波先生だけでは滿足しなくなる。されぱと云つて自然主義や象徵主義の作物を讀ます譯にも行かず、誠に困る。どうか、此缺陷を充たして吳れる者があればと、僕は日頃望んで居た。所が偶然にも翠川糸雨君の譯された少年僧正を讀んで見ると、多年の渴望が一時に癒された樣な氣がして、獨り悅に入つた。嘗つて、僕は若松賤子さんの「少公子」と五來素川氏の「未だ見ぬ親」とを讀んで眞實に淸いやさしい物語であると思つたが、今此書を得て錦上更に花を飾る樣に感じた。譯としては小公子の嚴正にして、而かもなだらかなる筆振と比する事は出來ないが、筋の面白味は優るとも劣る事はない。殊に此書には前二書に無いものがある。宗敎の味と云ふか、或は宗敎の力と云ふか、兎に角一種ふつくりとした溫味が書れて居る。試に其荒筋を云つて見ると恁うである。

時は朝の十時、ボストンの町は北東の强風が雨を交へて吹き荒れて居る。其間を電車や馬車は絕間なく往來する。騷がしい、狹い市場の通りを今二人の婦人が橫切らうとした。其一刹那橫合から二頭曳の荷馬車が疾風の如く、驅けて來て、咄嗟と云ふ間もあらせず、先なる婦人を橫さまに倒した。すると其瞬間に何處より現はれたものか、十三ばかりの少年が猿の如く身を蹐めて荷馬の足と足を這ひ乍ら、婦人の落した紙入をそつと懷に入れて、群衆の中に隱れた。少年の名はトードと云つて、新聞賣子を本業として居るが、時々盜んだり、搔浚などをやる。而して金の有る間は兩手を懷にして、食ひたいもの食つて、市中をうろつく。今日も今日とて、例の如く町を彷徨き乍ら偶然靜な通りへ出ると、建築半ばの一軒家がある。誰も人が居ないのを幸ひ、轉つて口笛などを吹いて居ると、十四五の少女が子供を抱へながら、息もせはしく驅けて來て「何卒後生だから隱して」と憐みを乞ふ。蒼白い頰のすつかり瘦せた、憐れな小さい顏を、トードは我にもあらず、じつと見詰めてると物の哀れなどを感じた事のない少年も、妙に心を動された。少女はナン、ヘースチングと云つて機關士の娘であつたが、父は大怪我をして死に、母も失望の爲か、生れて間もない子を殘して到頭彼の世の人となつた。其處でリヤーと云ふ老婆に引き取られたが非常に殘酷なので、逃げ出したと云ふ身上話をする。話の中にトードは子供を見ると無邪氣な、憂ひのない笑顏をして紅葉の樣な手を擧

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

げる。餘りの可愛らしさに、平素の粗野な荒野の一本松に似たるトードも、我を愛せよと強いらるゝ如く美妙な思が湧いて子供を無理に取つて抱いた。此が動機でトードの心には朧げ乍ら、愛の芽が萠えた。而して二人の爲に食物を與へたり、居處を探したり、色々奔走する。ナンも初は少年の性質の善くないのを知つて遠けんとしたが自分等姉弟を愛する事の深いのに引かされ、其儘にしたが或時「私や坊が大きくなつてから、其恩人の御前が盗人であつたなんて知らせたくない」と涙を流さんばかりの誠意でトードに忠告すると、トードも乾度止めると約束した。けれども其舌の根の渇かぬ中に白銅を拾つて又後悔する。

所が、或日曜聖馬可教會で僧正フヒリップ、ブルックスにつれられて説教を聞いた。意味は何だか分らぬが、何となく貴く感じて熱心に耳を傾け涙を流してきいた。これからトードは絶えず、僧正を慕つたが、遭ふ機會が無つた。それが不思義な事から。トードは僧正の側に居りたい一念から醫者のふりをして、毎日僧正の室に居た。然るに僧正の所へラッセルと云ふ婦人が訪ねて來て自分は一人の孤兒が徴治場に送れらんとしたのを請ひ受けて之を奉公にやつた。孤兒も其厚意を謝して一生懸命稼ぐのを見て、これならばと商賣に使ふ三輪車を與へる事にして　人から三十弗の義損金を集めて、買ひに行かうとした。所が無慘にも其金の入つた紙入を落した。時が延びたので少年は失望して行衞知れずになつた。就ては探して貰ひたいと云ふである。現在其金を拾つたトードの傍に聞いて居る辛らさ。一々罪狀を讀み上げらるゝにも増して居る。其夜彼は人なき所で思はず聲を上げて泣いた。それがブラオンと云ふ書記に見つけられてトードは終に僧正に遺書して逃げ出した。生れかはつたトードは第一着にラッセル夫人に金を歸さうと、朝から晩迄働く。そして金が纏つたら僧正の所へ行つて御詫をしやうと、樂みにして居る。或夜これで丁度取つた金が返せると五弗の金をポケットに入れて、家に歸らうとすると狹い小路から突然人の駆寄る足音。愕然して後を向くと、暗にも夫れと見ゆる四人の黒影。一時抵抗したが多勢に無勢で到頭倒れて了つた。此時一人の怪しの男が近いて、少年の隱袋から、涙でために五弗を奪ふ。負傷は輕つたがこれが爲に僧正に遭ふ機會を失つて、深く悲んだ。けれど遂に弱者の爲に新事業を起す事に決心する。其骨折りは容易でない。わけて先に自分を暗打したカーロッツをどうかして善人にしたいと苦心する殊勝さ。思はずほろりとさせる所がる。これから大團圓まで小波瀾はあるがざつとまあ、斯う云つた樣な調子で、しみ〴〵とさせる讀物である。僕は宗教小説として此書が幾何の價値あるかは知らぬが、之を大方の小年少女に推選するに躊躇せぬ。

友誼

三谷民子

嘗つてフユーブラックの友誼と云ふ本を讀んで、しみ〴〵と感じましたが、一昨年海外に參りました折、未だ見ぬ女であつた其著者と握手する事が出來まして、其感じが一しほ深くなりました。そこへ又此正月、友達の家に御年始に上つて、四方山の話をして居りますと、其處の御子さんが二人、唯今と云つて學校から歸りました。上り乍ら「御母さんは」と尋ねる聲がします。多分家の方で御座いましやう「御客樣が入らしやつて」と答へる樣子でした。すると御子さん達は「そう」と云ひ乍ら、そつと襖から覗きましたが「あら、今日のは御客樣じやないのよ、御母樣の御友達よ」と申しました。御母樣も其聲を聞きつけて「あゝ、今日のは御客樣じやありませんから、中へ御入りなさい」と仰しやる。御子樣達は御許を受けて中に這入り、世にも樂しく遊びましたが、私には初めの其聲が何となく深く印象されました。而して友と云ふ事を云はずには居られない樣な氣がしまして、今日も此題を出した次第で御座います。

一昨年で御座いました。佛蘭西で或友達と食事を致して居りますと、其友は日本では結婚をするとどう云つて呼ぶのですかと尋ねる。御主人の事は大抵貴君と云ふ樣ですと答へると、大層可笑しがつて笑ひました。御存知の通り佛蘭西邊では夫も、妻も、互に我友と呼びますし、英國や米國では我が愛する者と云ふ樣で御座います。ですから日本で奧さんの事を「おい」とか「こら」と申しましても夫婦を友として居る外國の方には分らない筈です。

友は社會の基礎で誠に大切のものと云はなければなりません。それが近頃濫用されて遠くから、一寸頭をさげる位の人も、世間話をする人も胸を打ちあけて語り合ふ人も、皆一つにして友と申しますが、友と云ふ意味は唯た話をするとか、頭をさげるとか、云ふ事ではあるまいと存じます。私が社會の基礎と申しまするのは或人と或人と共同すれば開明になる國民が一致して誠の情を持てば正義公道が敷き易いからであります。それが若し無かつた時には世はどうなるか、心細い事で御座います、でありますから友情と云ふ事は古來詩人學者の好題目となりて如何にも美るはしく詩文に書き記されてあります。希臘のアリストートルは一の魂が二つの身體に宿つたものが友だと申しました。又カーライルは眞實の友誼を保つには善と誠とを集中せねばならぬ其餘は鎧をつけて中立の位置に居るものだと語つて居ります。それからコンコードの聖人と呼ばれたエマーソンは我友を得てから、空の色は一しほ蒼く見え、ばらの花は其紅の色をましたと迄書いて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。

先日或學者の話をして居るのを聞きますと、人と云ふ字は實によく出來ておる互に寄り合つて助けて居る。と恁う申しましたが、成る程人と云ふ字は一つでは出來ません。二つは一つよりも優り、三つは二つより優つて居る譯で御座いまして、人の共力した所に大きな力がある様に思はれます。けれども友情は算術の様に數を以て計算する事は出來ませぬ。

或方々は人を信じたり、愛したりすると、惡い所が見えなくなると申します。けれどもかくするは其人を善くする譯ではありますまいか。親は他人からは見る事の出來ない美點を其子に見る事が出來ます。それと同じく友達同士でも互に人には見えない美をも見出す事の出來る様になれば二つの者が一つとなります。これは算術では決して分りません。人はどうしても心が滿足せなければどんなに成功してもどんなに金が出來ても其人は淋しい様で御座います。魂の叫は友であります。殊に婦人は母としても、妻としても、教師としても、美しい情を持つて居るので御座いますから、此情を移して友と交れば結構な交りが出來ると考へます

これは私自身にあつた事で御座いますが、餘程以前、私の學校に立派な娘であり乍らひねくれた子がありました。生徒でも先生でも餘り善く云ふ者は御座いません。或時の事、教員會議がありましたが、あの娘は操行が善くないから級第さする事が出來ないと云ふのが一般の評で御座いました。私は其時側で聞いて居りましたがどう云ふ譯か分りませんでしたから、尋ねました所其娘は癪にさはると教場にも出ずに一日蒲團を被つて寢たり、よし出ても机に徒書をしたりして、一向云ふ事を聞かぬ、誠に困つたものだと云ふ話で御座いました。私も其時はそれなりに過しましたが、何だか氣になりますので、段々樣子を聞いて見ますと、其娘は早く母親に分れて、繼母の手に人と爲つたと云ふ事で御座います。その話を聞いて此人は眞實に愛を感じなかつた爲にひねくれたのに違ひない。と恁う思ひまして、どうか近いて、親しく語る折を見付け樣と致して居りました。そこで後姿でも見た時に呼びますと、一度は振り向くのですけれど二度目には「知らないわ」と云ひ棄てゝ逃げる様に行つて了ひます。けれども考へて見れば其人は現在自分を生んで呉れた母が生きて居り乍ら、母樣と呼ぶ事の出來ない氣の毒な人。出來るならどうぞ曲つた心を癒してやりたいと日々念じて居りました。或時私は思ひ切つて其子の部屋を尋ねて見ますと又蒲團の中に寢て居ります。今日は大層好い御天氣なのですよ」恁う云ひましたけれど。やはり默つる。私はそれにも拘はらず、今日はね、郵便を出したいと思ふのですけれど、貴孃若し行かれたら、行つて下さいませんかと申しますと、むぐつて居た頭が少し出ました。貴孃御加減が惡いなら無理には御願ひ出來ないのですけれど、と云ひますと否と答へるのです。じや、どうぞ一所に御願ひしますと引き立てる樣に起して、それから髮を結ぶ間待つて居りました。少し手間が取れると思ひましたが、十分ばかりたちますと參りました。そこで下駄を揃ひてやつて漸く伴れ出しました。通りへ出て切手を買ひまして、貴孃は十錢のをはつて下さい。私は三錢のをはりますからと多いものでしたから手傳つて戴て郵便を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

出しました。御飯はと聞きますと、未だ食べまんと申しますから今迄そんな事をした經驗はないんですが、一所に汁粉屋へ入りました。其時其子は御汁粉と聞いて妙な顔をしましたが、今日は先生が一所ですから安心して御あがりなさいと勸めると嫌な顔もせず云ふなりに中に入つたので御座います。それも濟まして今度は勸工場へ入りました。それから色々列べた品を眺め乍ら、話の序に、貴孃は勉強の中で何が好きですかと、尋ねると初はもじ／＼して居ましたが音樂と作文との事。それじや今度の卒業式の時には是非貴孃に音樂をやつて戴きましやうと申しますと嬉しいのか恥しいのか、眞赤になりました。兎も角音樂を勉強なさい。而して作文は私が見て上げますから持つて入らしいと色々慰めてやりますと、何となく元氣が出て、いそ／＼致して居ります。話の中に勸工場も出て、學校に歸りました。舍監に今日のは試めしに携れ出したのだから、叱らずに柔に取扱つて下さい。彼の子は今迄温い愛を感じなかつた樣ですから、其御積りでと頼み、それから音樂の先生の許に參りまして、彼の子は餘り出來ないかも知らぬが、今度の卒業式には一つやらせて見て戴たいと申しますと、先生方も半信半疑の樣でしたが兎も角も承諾して呉れました。それから其子は音樂を初めましたが、根が好きの爲であるか、著しく上達致しました。又作文も能く持つて參りましたから、それを餘り惡く云はずに善い所を褒めて、すら／＼とした性質になる樣に祈つて居りました。然うすると三月四月と經つ中に、段々從順になりまして學年の終には首尾善く級第致しました。

私が昨年倫敦から歸つた時、其子の祖父だと云ふ方が見えられて、先生に色々御厄介になりましたが、彼は肺炎に罹つて、今入院致して居ります。到底助るとは思ひませんから御忙しい所でしやうが只一目逢つて戴きたいとの事。吃驚して忙しいの何との申す所では御座いません直に參りますと病院を訪れますと、細い手を出して、先生、永い間御目にかゝりませんでした。私は到底いけません。けれども死んでも嬉しく參ります。此世でした事が大くも小くも見えましやうが、唯自分で出來る丈の事をすれば善いと信じて居ります。それから先生私は何時か先生につれられて、郵便局に參りました時程嬉しかつた事は御座いません、と語る言葉も心なしか寂しい樣に感じましたけれども此頃では餘程快い方であるとの事、どうか一日も早く癒つて戴きたいと思ふて居ります。

思ひやりがあれば其人に美が見えます而して殊に婦人には其特權が御座います僞う思ふと友情は苟もする事は出來ないものである、友情は道德の花であると、つく／＼感じました。（文責在記者）

幼年時代の教育

▲子女教育に對する母の務　其五

海老名みや子

人生れて十歳位までを幼年時代と申ます。此時代は專ら身體の發育を主眼とする時期でありまして、哺乳のこと、飲食物のこと、衣服のこと、運動のこと、母として最綿密な注意と、多大の勞力とを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拂ねばなりませぬ。近時敎育に經驗ある方、殊に不良少年敎育に深き實驗をおもちになる方〴〵の御説を伺ひますに、子供の精神狀態は、其身體發育の工合に、大關係があるものであつて、不良少年といふべき何か變つた惡僻を有する子供の如きは必ず其身體發育の上に、不完全な點がある。これに反して無病强健見事な身體の發育を爲て居る子供は、必ず其智能道德凡て精神上の發達も亦立派である。されば其子の惡僻を矯正せんとするには先づ身體より作りあげねばならないといふは、實に其通りであらうと存じます。これは決して子供許りではありませぬ。大人も其通りで、人の肉體と精神とは切つてもきられぬ密接な關係を有つてをります。マア手近い話が、私共の身體の工合のよい時と、惡い時はどんなであります。それはよい時はおのづから氣輕で、爽で、快活で、何事も苦なしにやつてのける勇氣もありますが、惡い時はそうは參りませぬ。少しの事にも屈託し、さもない事に氣をいらち、物憂くて、つひむかばらも立つといふ風で、自分で自分を持ち扱かへかねる時もありましやう。よほどの脩養と自制の力がありませんでは、いつも春日のうらゝかさをたもつことは出來ませぬ。大人でさへその通りですもの、子供が機嫌のよいも惡いも、いゝ兒もだゝつ兒も其身體の健康發育の工合によるものだと申事は至極道理だと思はれます。サアかう申ますと早合點の方々はア、成程それは至極御尤な御説です内の子供等は腕白でいたずらで母のいふ事などは耳にも入れませぬが、仕合と身體が大夫ですから、いまにどうにかなりましやうと、淺慕な理屈に安心して云ひなり放題うつちやらかしておきますと、サア大變、十三四歲になりまして、…成程身體は外見立派の樣ですがどうにも仕方のない惡少年となりすましてしまふ事があります。これは身體の發育といふ事をあまり簡單に解釋して

飲まして食べさして着
せて寢かして起して

さへ行けば獨でに成長するものとの心得違ひであります。これといふ大した病氣もなく肉付血色よろしければそれだけで完全な發育をしたものと申されましやうか。私の屋敷に二三本の無花果の樹があります。數年前二三尺の小枝を貰つて來てさし木を致しました。すると、萠を出してずん〴〵のびます。三年目位には四つ五つ七つ八つとどの樹にも果を結びまして秋も半ばにいたり、おそまきながら辛じて熟しました。四年目には五十も百もなることはなりましたが。やはり熟するのが後れて、半ばはしなびて落ちてしまひました。樹の成長は驚くばかりでもう二間も三間も上へものびて多くの枝が出で春の末つ方には見るも心地よく葉が繁り合ひます。昨年は一木に數百の果がなりました。今年こそは充分に無花果の御馳走が出來ると樂しんでをりますと、無慙にも、風の爲に、しかも其眞木がポキとばかり折れてしまひました。この元氣よく、見事に成長した樹が、どうしてかうもろく折れましたらうか。能く調べて見ますと果せるかな、其樹の中は虫の爲にうつろとなつてをりました。あゝこれだもの昨年も數十の果を結びながら充分に熟させる力をもたなかつた筈だと初めて分りました。樹木でさへもこの通りです。まして人間に於きましては、完

全な發達をとげる事は、實に六ケしい事だと思はれます。一見立派な體格を備へて居る樣に見へましても其人の腦髓の一部に不足な處があれば其人格のいつこかに必ず缺點があらはれて來るだらうと思はれます。この通り人の肉體と精神とは密接の關係を有してをりますから小兒の身體の發育といふ事に付ては

無量の深い貴い意味

を以て考へねはならないと思ひます。飲まして食べさして着せて寢かして起して行く丈て立派に育つものなら大した苦勞もいらない樣なわけですがそう簡單なものではありませぬ。ある西洋の人が申された事をきゝましが、小兒が生れて一年未滿に其人一生の趣味の傾向及其性格が殆ど定ると申てもよいとの事です。こゝが所謂三つ兒の智恵は百までといふ處でしやうか。たとへば幼兒は何もかも珍らしい物許りで、見るもの聞くものに注意をするものであります。それで若しふと音樂の音をきいて、非常な感動を起して全力を注いだとすれば、それが爲に深い〱印象が出來て、其兒の趣味はそれが中心となつて發達して行つて、音樂に對して云ふに云はれない興味を持つ樣になるとの事であります。又物の數といふ事に付て、何か特別に其兒の注意を引く事があつたとすれば、それが中心となつて凡てのものが其まわりに成長發達して行く。斯くして音樂者も數學者も幼兒時代に、其素因を作るとの説であります。サアこう聞て見ますと大變六ケ敷なつて參ります。飲して食して主義の育て方とは矛盾するかの樣にも一寸思はれますが、一歩考を深めて見ますと、決してそうではありませぬ。

元來完全な身體の發育と申のは、外部四肢五體が立派に備つて、のび〱と成長すると云ふばかりではありませぬ。これと同時に腦髓も充分の發育をしなければ、完全な身體の發育とは申されますまい。腦髓は人體最上の部でありまして、この發育が不充分でありましては、あつて甲斐なき、すたれ人同樣であります。それで幼年時代身體の發育を主眼とするといふ意味は四肢五體頭腦凡ての發育を指すのである事は篤と心得て置かなければなりませぬ。そこで此飲まして食べさして着せて寢かして起してといふ簡單な仕事が非常に深い貴い事になるのであります。今かりに哺乳といふ事が、其嬰兒の身體發育のみならず。其精神發達に、どの位關係があるかといふ事を考へて見ましやう。從事私共日本の母親は巳れの乳房から絶ず流れ出る乳汁を、何の制限もなく、嬰兒がむづかりさへすれば與へるものと考てをりまして、子持の胸は何時も明けつぱなしで、ちやんと衣紋があはさつてる事はありませぬ。尤も當時の方々は育兒法のお講義で其習慣のよくない事や、嬰兒には必ず二時半間又は三時間と一定の時間をきつて、哺乳しなければ、小兒の腸胃を害ふといふ樣な事はとくに御承知の事でございますが、扨其實行になると誠に覺束ない樣です。處が此實行の出來る出來ないは其兒の發育に、どの位かゝはるでありましやう。前々號親心の敎養のくだりにも一寸申たと記臆しますが、子供可愛やの情に引れて、むづかれはすぐお乳といふ樣に、少しの制限もなし得ない樣では、第一母として其兒に最上の務をなしたと申されましやうか。こゝは母親は巳れの情をおさへて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時間が來るまで、忍ばなければなりませぬ。そこで、母親が己れの肉情に勝ち得たが爲に、小兒にどんな影響がありましやう。第一腸胃の健康を保ち、身體の發育によろしきは申までもなく、其他に、自から規律といふものがあつて、何んでもかでも自分の意の通りになるものではない、辛抱もしなければならないと云ふ事が、知らず／＼の中に嬰兒に知らされて終によい習慣をつけられる樣になります。今一つ、これは最も大切な事だと思ひますが、すなはちそれによりて

母親の威嚴

といふものを、其子に悟らせることになります。小兒が八九ケ月にもなりますと驚くばかりもの事のわきまへがついて參ります。どんなにオツパイ／＼とおねだりしても、まだいけませぬとの母親の一言に、どうしても翻へす事は出來ないといふ事を悟つて、母親に服從しなければならないといふ美はしい習慣をつける事になります。この母の威嚴といふ事は日本の母親に一番缺けて居る樣感じられます。

この通り、母親の務の手ほどきともいふ可き簡單な哺乳の事一つでさへ、高尙な深い意味の、小兒身體の發育の上に、大なる關係があるものとすれば、この大切な十年の幼年時代の身體發育を、極淺薄な意味に解釋して、大抵な事は人手任せに放任したり、又は自身のいそがしさにかまけて、よいがげんに放擲つておいたりする事は、誠に恐ろしいことで、母として濟まない事だと思ひます。私は私自身が近頃切にその事を感じてをります今私は此年齡にある四人の子供をもつてをります。尋常四年と同一年と今年學齡に達したのと幼稚園年齡に達したのとであります。それで私はどれ丈この此子供の爲に盡してをりますか。恥かしい事ですが、私は子供等の爲に、してやり度と願ひますことの、十分一も盡して居ない事を自白致します。私は日に／＼これでは濟まないといふ事を感じてをります。又出來る丈盡してやり度と願つてをります。そして實際出來ないといふのは、どういわけでありましやう。私はずい分雜務の多いものでありますから時間がないといふのはたしかに一つの理由であります。けれども、それは申はけにはなるまいと思ひます。何はさて置き、子供等の事は、充二分の注意を拂つて見てやらねばならない事でありましやう。强て作れば何とか多少の時間は出來樣と思はれます。勿論子供の面倒を見てやります事は決して樂なことではありませぬ。疲れて外から歸つて來た時や、いろ／＼の事に屈託して思ひに沈て居る時、又はいそぎの仕事をわき目もふらずして居る時など身邊により集つて、たわいもない事をはい／＼おはなしされますと、ホツトしてマアうるさい彼方へいつてらつしやいと云ひ度くなります。處が子供は其たわいもない事が余程大切な事でありますから斯う云はれると大失望です。皆蛛の子を散らす樣にどこかへ行つては仕まひますが、決して愉快ではありませぬ。後で私はア、／＼濟まない事をしたと思ふ事が度々あります。若し私と御同感の方がありましたらどうぞもつとお子樣方の爲に盡してあげて下さい。これは必竟此幼年時代を其人一生を作るの大切な時代と思はず、輕々敷見過したからの事だと思ひます。次號には此時期に於て注意すべ

き種々の實際的ことがらに付て皆さんと研究したいと思つて居ます。

マッサージの話

金子魁一

上

マッサージといふと我が國の按摩術とは少しく異つて居るが其原理は同じ事である。マッサージの日本に行はるゝ樣になつたのは新しい事であるが、按摩術の行はれたのは古くからの事である。殊に支那などでは唐以前より行はれてあつたらしく、素問といふ書にも按摩術の事が詳しく書いてある。古我邦の文化は大概唐代から流れ來つたそうであるが、按摩術なども、そうである。即ち支那朝鮮との交通が開け政治上の事にも大改革が行はれ大寶令などが布かれた。其の時に按摩博士、按摩師等の官が制定された。併し是れは單に支那の物眞似をした丈で、實際よく按摩術が了解されてなかつたがために、知らず〳〵の中に癈れて仕舞つたのである。

德川氏の初頃に、伊勢の人、林正且氏が斯道の頽廢を慨いて、唐書と自個の研究とによりて導引體要といふ書を著はした。併し是れを以て治病の一助としたのは香川修庵氏である。

凡ての技術は學術の指導を受けて始めて發達して行く。按摩術も亦然りで只單にモム、タヽク、と云ふ丈では如何に其の技が優つて居つても効力は少ない。寛政の頃伏見の藤林良伯氏が此の點に注意して新に按摩手引と云ふ書を著して身體各部に就て技術を圖解した。今日から見れば何ともない樣な話だが當時に於ては實に卓見といふべき事である。

和蘭、獨乙の醫學が輸入されて以來も是に心を注いだ人は少なかつた、職業を得る事の難儀な盲人等が、余儀なくやつて居つたにすぎない。然し杉山流などの如きはよく發達したもので、マッサージに酷似して居るが、惜い哉、學術的の研鑽がされて居らない、正宗の樣な名刀でも、使人が惡いと不測の大害を起す。どんな善い事でもそうである。よく昔から聞いた事であるが、足の血管が硬くなつて居る老人を按摩して、血管破裂を起して命を失ふた事や、又は背推に病あつてそのために下腹に膿がたまつて所謂「コリモリ」となつて居るのを、按摩したために、膿の嚢が破れて腹膜炎を起したなどゝいふ事がある。然し是れといふても技術其のものゝ罪でない事は明かである

マッサージの盛になつたのは、日露戰役の前后からである、今日では都下に、マッサージを開業して居る人も多くなつた、勿論開業でもするか少なくも專門にやらふといふ人は、どうしても解剖的の智識を要する。

疾病の治療上に應用し樣をするときは

(一)如何なる疾病は身體の如何なる部分をモムべきか。

(二)如何なる疾病に用ふべきか。

(三)臨機の工夫も多少は必要である。

であるから、如何しても醫師の監督を受ける事が必要である。併し素人が心得て居つて、家人の勞を慰するといふ目的ならばそんなに六ケしく考へなくもよろしい。

下

按摩のモミ方は、遠心性といふて、中樞より末梢の方に向つて行くが、マッサ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ーシは反對で、末梢から中樞の方にモム、のである。求心性とでもいふべきものであらう。然し其の効用に於ては大差がない。以前もいふた通り學術的研究の伴ふて居る點から、治病のためにはマッサージの方がよろしい。然らば其目的は如何と云ふと按摩も、マッサージも共に新陳代謝を盛にするといふ事である。

人間が生きて居る間は、何時もこの新陳代謝が行はれて居る。皮膚と云はず、筋といはず、身體の各部分、各機關が絕えず消耗されて行くが、一方に於ては、食物の中より血行の中に入つて居る滋養物が組織を養つて居るから、新しく組織が生れて行く。其のために一方の消耗作用を補なつて行くのである。それで組織が新生する作用が盛な時は、其部分が肥ゑるといふ事になる。この作用を盛にするといふのが、マッサージや按摩術の目的である。併し世間では、所謂「コル」といふ時に按摩すれば治するとか、勞を治するためにモムとか思ふて居る。勿論そういふ効はある、だか其は技藥の事に屬する。西洋では胃腸の疾病もマッサージにて治療して居る、それであるから、扨の如き技術は盲目にやらして置いては駄目だ、目の見える人が醫學上の智識を習得して始めて從事すべきものである。

扨てマアサージをやるには、豫め解剖學を心得て居ると都合いゝが、茲では只一般の事をいふ事にして、其以上は他日に讓る事にしようと思ふ。マッサージを行るには次の様な注意を要する。

（一）術者の手は、柔かなるべき事
（二）被術者の體は裸出すべき事
（三）多毛の人なれば豫め剃る事
（四）局部に澱粉を散布する事

それから、マッサージの技術は大別すると

（一）輕擦法
（二）揉提法
（三）強擦法
（四）叩打法
（五）振顫法

以上五つである、技術を一々述べる事は他日に讓る。

野口精子の君を送る

現れては數こそ少けれ、たまくの御筆のすさびにも限なき讃嘆の聲を集めて、誌上の花よと待たれ給ひし君。隠れては思もかけぬ十露盤まで手にし給ひて、雜多なる事務の操掌に旦暮を余處目にも忙しう送り給ひし君、君こそ實に本誌の姉なりき。尙ほ辿々しき本誌の行末なれど、如何様にもして育げ上げ、何れは立派なるものとして世に出さん覺悟の、社中同人一人として異る處はなけれど、誕生以來直接手にかけ給ふ事多かりし君の、吾子にもまして慈しみ給ひし御情の如何許りあつかりけんかと感謝の念に充され候よ。さるを今や迷へる羊に道を説く尊き業に就き給ふ背の君に從ひて「都を山へ三十里」、出立ち給はん日も近しと聞く。雲山遠くは離れねど、惜しき別れにも候哉。コスモス、ダーリヤの花植ゐて夏の夕、秋の朝、趣多かるをめで給ひし高築の御住居より、江戸川のほとり燦亂の花の色も、朧の街に瞬くくれなゐの燈火も、今年は逢はずに去り給ふ、實に惜しき別にも候哉。然れども雨にも風にも自然の面影は鄙に多きと聞き候を、「荘麗の山姿、水明の流」如何で御心にさまらぬ事の候べき。斯くて又鄙の春色君が健筆に入り候て絢爛の姿を本誌上に飾らばうれしき極に候べし。さらば。

……………楠男生）……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭に於ける宗教

海老名彈正

舊約聖書を讀んで見ると如何にも家庭の成立に力を籠めて教へて居る。

ユダヤ人は民族としては其宮を失ひ、宗教を奪はれ、幾多の苦き實驗を嘗めて居る。けれども此等の實驗を通して、世界に貢獻したる宗教は眞に貴いものである。それならば、其宗教は如何にして育ち、又如何にして深き意味を發するに至つたかと云ふに、全く家庭に根ざして居る。宗教と云へば家庭を離れて、山林又は野の生活に存する如く思ふた時代もある。否つい近頃迄は宗教と出家とは相離る可らざる感想があつた釋尊の如きも生病老死の四苦に無常を觀じて道に進んだ時には、家を離れ、父母を離れ、可憐の妻子をも振り棄てゝ去つた家人はどうかしても之を引き戻さんとして色々苦心したが何の功なく、風にも、雨にも、其歸らん事を待ち詫びたけれども彼が幾年振に歸つて來た時には最早夫でなく、又父でなかつた。而して喜び迎ふる妻と子に世の果敢なき事を說いて之を濟度したと云ふ。何たる寂しい事であらう。けれどもユダヤの宗教家はモーゼを初め、宗教を家庭より離した者はない。國家として、民族としては時に消長がある。けれども家庭は常に存せない事はない。故にユダヤに於ては佛教に於て僧を三寶中の一寶として貴んだ如く家庭の外に僧の階級を設けて居らない、寧ろ家庭を以て神の宿り給ふ所、宗教の生長する所とした。抑も家庭と宗教とは殆んど同時代に生れたもので家庭が出來た時には其處に宗教があつて家庭の楔として之を神聖としたのである。故に家庭は唯單に自然的に成立したと云ふよりも、宗教に依つて、淸められたと云ふ方が適切だと思ふ。

昔から祖先崇拜と云ふ事があつて家庭の主なるものとなつて居る。よし祖先崇拜でなくとも、家庭のある所には、宗教があり、禮拜がある。例へば婦人が人に嫁ぐ時には其夫の家

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の祭壇の前で誓はねばならぬ事になつて居る。即ち其神の氏子となる決心が無いならば、其婦人は仇人として却けらるゝ、又子が生れると、これを神に捧げる事は最も大切な禮式として認められた。其他喜びにつけ、悲みにつけ、神を祭つた如斯時代に於ては家長は同時に祭主であつて、或は家に代つて願を捧げ、或ば神に代つて其旨を告げる役目を持つて居た。故に一家の中に、誰か侮辱を受けたものであれば、神かけて仇を報ずる事に力を盡した。これは非常に古い事の樣であるが、我國の如きは今猶其風がある。家の先祖は非常な力で、苟も御先祖樣に對してと云ふ時には、容易ならん事である、昔徳川將軍を諫めるには二の言葉があつた。一は日光樣に對してと云ふ事で、一は京都に在す上に對してと云ふ事である。此御二方に對して、それで宜しう御坐いますか、と云はれると流石の將軍も一言も無つたと云ふ。それ程、先祖には力がある。此風は武士の家は申す迄もなく、町人百姓の間にも極めて大切な事であつた。私の家などでも、三度の食事をする時には簡單なる禮拜があつて、此米は働いて取つたのではない、祖先の軍功に依つて得たものであると、善く聞かされたものである。今日でも西洋人が見ると、日本は祖先崇拜の國であると云ふ。それは決して過つた觀察でなくて、寧ろ穿つたものと思ふけれども、如斯風習は何時迄も昔の儘で維持す可きものではない。エホバの神は一面民族の神であるけれども永く此に止らずして遂に世界の神となつた。國學者に云はすれば天御中主神は獨り我國の守護神たるに止まらずして、世界を照す八紘の神であると云ふ。事實は暫く措くが神と云ふ以上はかくなければならぬ。家々各異れる神を見た時には御互は敵とならなければならぬ。所が少し大きくなつて、一の町、一の村の神を認めた時には町と町、村と村との爭と變る。更に進んで國と國とに神のあると云事になつても勢ひ爭はざるを得ぬ。僅か五六年前の日露戰爭の時でさへ、神が戰爭に御出掛けになつたと云ふ噂は到る處にあつた。然う云ふ神樣ではどうしても衝突は免れぬ。けども神は宇宙の神と見る時には偉大なる思想が湧いて來る。同じ赤子が生れても、唯一家の子ばかりではない、國の子ばかりではない、宇宙に在す活ける神の子であるとして育てる時には一家には宇宙の面影が宿つて居る。これなくしては家庭より偉大なる精神が起らない。

家庭の成立

は何であるかと云ふこ初は人の肉體に深い關係がある。肉は家庭を作る一の動機である。けれども家庭が情欲にのみ依るならば、それは淺薄である。情欲は永久ではない。成る程

其焔の燃ゆる時には氷も解ける。けれども氷は解けて又結ぶ。しかゝその結ぶときは復解けないのである、家庭の眞なる愛は情欲ではない。人の理性に根ざすものでなければならぬ。情欲にも宗教が無いとは云はれぬ。それも神の賜物である。けれども理性は更に大なる賜物と云はねばならぬ。例へ基督教が何時とはなしに一夫一婦となつたと云ふ事も情欲ではなくて理性である。敢て基督が命じた譯ではないが、人の理性が進めばかくならざるを得ない。其理性は神の德に基くものである。さらば理性には如何なる物が宿つて居るかと云へば、實に春の花が咲いて又凋む如きものではない。欲情に浮沈はあるが光明はない。其向ふ所は分らない。けれども理性になると種々複雜なるものが發する。試に考へて見れば、我心を慰め喜ばしむるものは何か。人間の心と心との親しみは何か。云ふ迄もなく理性である。愈深く入れば入る丈妙味があつて淸い所、樂しい所が、云ひ知らぬ中に含まれて居るのは理性の特色である。情欲の耳を以て、鄭聲を聞けば一時は樂む事が出來るかも知らぬ。けれども時過ぐれば、償ひ難き悲哀が來る。野鄙な中には眞の樂は無い。之に反して、高きものになると心がすが〳〵しくなる。或意味に於ては情欲は消えて跡なきものゝ如く思はれる。如斯音樂は情欲を旨とする人の歌ひ、又は奏づ可きものでない。其處には云ふに云はれぬ深みがある。何故に深いか。理性の現象であるからである。且又書や彫刻の如きも情欲に依るものは誠につまらない。けれども士君子の恍惚とするものは香ゆかしき理性の姿である。かゝる理性の美はやがて宗教に行く可きものである。天地の奥深い消息はこれでなくては伺ふ事が出來ない。世の人が獨身者に對して、奥さんが無くては御困りでしやう。飯も炊がなければならず、衣服の心配もせなければならずと云ふ樣な事を云ふ。これではまるで夫婦は食ふ事、着る事に存する樣である。

夫婦は深く知り合ふ點にある

互の淸き所を打開いて、交るにあらざれば家を同うして住つても、眞の夫婦ではない。或人は自分の妻よりも、善い者はない、自分の夫より善い者はない、と云ふのを聞いて偏頗な議論だと云ふ。けれども其處には大なる意味がある。表面から見れば、妻よりも美なる婦人はいくらもある。けれども妻程眞實を打あかして、盡して吳れるものは無い。此意味で我が妻は天下第一等の婦人にして、我が夫は世界第一等の男子である。夫婦となるのは決して虛榮心を滿足さする樣な皮相の所ではない。天來の力と力とが相結んで、同情同感となる所にある。さすれば其處には宗教がある。宗教は强ち祭壇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がある。聖書があると云ふので成立するものではない。祭壇もよい。聖書もよいそれは無ければならぬ。けれども宗教は夫と妻とが互に理性の奥に存する至誠を表はした場合に最も善く見る事が出來る。此の奥深い靈の力に由て結ばるゝを神の合はせ給ふといふのである。恁う云ふと餘りに空想に走ると云ふ非難があるかも知れぬが決して空想ではない。多くのクリスチヤンが朝に、夕に、實驗する處である。近頃ジョン、フアスターの傳を讀んだが、彼は三十一歳の時、其妻と成る可き人と遭つた。これまでフアスターは深い思想を持つて居つたが、その心は友にも知られずに居た。所が或時、一婦人の書を讀んで見ると、誠に善く合ふ所がある、そこで其に相會して話して見ると、一見舊知己の如く、忽ちにして親しくなつた。けれども彼には生活の困難が伴つて居たので直に娶る事をせなかつた。其間は實に五年である。けれども彼等の間に何等の忌はしき事はなかつた。我が國などの若き男女が親しくなると、忽ち情に流される。これは理性の發達せぬ爲である。フアスターの如きは五年間之を娶らずと雖、其婦人に對して絶えざる崇拜を捧げた。恁う云へば已惚だと云ふかも知れぬが、人間の眞面目なる、精き精神は崇拜せずして居られるものではない。乞食の子でも其人にして至誠があるならば崇拜せずして居られない、況んや敬虔なる淑女の眞の愛を見た時に之を崇拜するに、何の恥しい事がある。誰か觀音の像を見て、貴く思はぬものがあるか。彼はパッションを越えて居る。婦人ではあるが狎るゝ事は出來ない、全く神々しい戀愛の現はれである。女子が男子を見るも　男子が女子を見るも、これでなくては行かぬ。

かくして、淸い夫婦の中に子が出來ると、又不思議な事がある。諸君の中には親たるものがある、子たるものがある。けれども其處は唯分身と云ふばかりではない、更に貴きものがある。親は子に對し、子は親に對して、他人の爲に出す事の出來ぬ淚がある。其處に人生の妙味がある。先頃濱松に行つてホームと云ふ人の家に宿つた。其家には新夫婦に子がある。何しろ初めての事で夫婦とも子に對しては新しき實驗である。而してホーム氏はその愛子を見て唯妙だ〳〵とばかりいふて居られた。妙で終つてる。それが一度ならず、二度ならず、三度の食事毎にいはれた、眞に妙ではなからうか。何で子の爲に苦勞するか、何で一身を捧げて死んでもよいと云ふ氣になるか、說明する事は出來ない。親の子に對するは聖人が一般の人に對するよりも深い。又子の方から云つても一番心の淸いのは親に對した時である。今日心掛の善い親は子の厄介にならぬと云ふ勵みがある。けれどもお前はお前、己は己と云ふ樣になつて子の責任が無くなると、兎角失敗する。

それよりも衡は早く卒業して呉れ、早く立派な者に成つて呉れと云はれて居る子の方が成功する。亞米利加あたりに行つてる人も自分の賃金を割いて、國元へ送つて居る人が成功して居ると云ふ。何なれば、自分が汗を流して働いた、其金の中から二分の一でも、三分の一でも、送ると云ふ所には清い所があるからである。責任なき者には此清い所が現はれない。併しこれだけでは未だ子たる道は足らぬ。若し幸にして子が親の精神の清い所を見て、之を慕ひ慕ふて憧憬るるならば、其處には天地の父なる神の御姿がある。表面を見れば人生必ずしも美ではない。親にして子を賣るものあり、子にして親に裏切りするものあり、夫は妻の敵となり妻は夫の敵となり、忌む可く、憎む可き事柄は澤山ある。げれども此等の凡てを破つて根底に存する清きものを取り返さなければならぬ。宗敎は唯上の空で行けるものではない。我々は生命を以て、祈を以て、神より力を貰はなければならぬ。そうしてこゝにパッション以上の混りなき天眞を見るを得る。

今や男女の兄弟姉妹の中には、各の目に春を思ふ如く家庭の樂を思ふて、心忙しき人々もあるかも知れぬ。けれども家庭は最も樂しきものであると同時に、まだ最も嚴正なるものである。家庭は唯男女が相集まつて之を作らんとしても修養がなければ眞の幸福はない。諸君が自からパッションを破つて、一個〳〵の中に、尊きものを自覺して初めて眞の樂しき家庭が出來るのである、フアスターが家庭を作つた時、天地觀がすつかり變つて、野の花も空の星も昨日見るのと、全く變つて同じ思ひがしないと云つたが、これは恐く永き修養の結果であると思ふ。諸君は家庭を作らんとする前に如何なる覺悟を有し、如何なる準備を有するか。深く思ふ所がないならば、後に悔いても及ばない。宜しく先づ理性をして發達せしめねばならない。靈的本能を盛ならしめねばならない。然らば靈の神は必ず清き家庭を作らしめ給ふに違ひない。神の結び給ふものは人之をはなすべからずとは實にこの樂しき家庭の生命である、宗敎である。

わが愛する者の聲きこゆ。視よ　山をとび、岡を躍りこえて來る。わが愛する者は獐の如くまた小鹿の如し、わが佳耦よ、わが美しき者よ、起ていできたれ、視よ、冬すでに過ぎ、雨もやみてはや去りぬ、もろ〳〵の花は地にあらはれ、鳥さへづる時すでに至り、斑鳩の聲われらの地にきこゆ　無花果樹はその靑き果を赤らめ　葡萄の樹は花さきてその馨はしき香氣をはなつ、わが佳耦よ、わが美しき者よ起て出きたれ。……　……（雅歌）

雑録

予が旅行中に見たる種々なる女性

栗原基

▲本誌前號に掲げられたる海老名先生の「現代女性の宗教」及び令夫人の「新らしき武裝」なる力ある文は讀者諸君に深き印象を與へたことゝ信ずる。或人はこれによりて武者振ひをなし、或人は今更らの如くに、女性の容易ならぬ責任を感ぜられたことゝ思ふ。國家の發展、社會の活動、家庭の和樂、一として新しく武裝せる女性の努力に依らずに其健全なる目的を達することは不可能のとである。これは何も今に始まつたことではないが、國亂れて忠臣を思ひ、家貧うして良妻を思ふと云ふ樣な風に、世が漸やく復雜となつて來るにつれて、自然賢明なる女性の手腕を要することが、一層痛切に感ぜらるゝと云ふことである。それ故に今迄女性に對して左程思慮を煩はさずに、まあ奇麗な玩弄物位に思つて居つた者でも、昨今の風潮を見ては氣を落ちつけて腑に落ち、情に合ふ樣にしんみりと考へなければならぬことになつて來た。

▲自分は過般其筋の命を受て三週間程海外旅行を企て、上海に立ち寄り、それから香港に行つて歸つて來た。其間、種々樣々の女性に接する機會を與へられて色々な感想を起した。其中には憐むべきもの、祝すべきもの、同情すべきもの、感謝すべきものなどあるが、其一二を筆の動く儘にかいつまんで書いて見て、讀者の一粲に供しやうと思ふ。

▲自分の乘つた船は日本郵船の丹後丸と云ふ、七千四百噸餘の歐洲通ひの船なので、東洋諸港に上陸する船客も多かつたが、歐洲まで行く人々もあつた。特に日英博覽會の用務を帶びて英國に行く實業家、視察員、勞働者なども乘つて居つた。先づ一等客の中にありて、多くの視線を集めたのは九條男爵及び令夫人であつた。九條男爵は人も知る如く、皇室に深き關係を有する方で、過ぐる日竹子姫と華燭を賀典を擧げ、これより英國留學の途に上るを機會として、新夫人とホネー、ムーンをなさるゝ譯である。年若き男爵夫人は細くすらりとしたる洋裝の姿にて、花やかに薄化粧を施された顏から何時も微笑を洩らしおられる。浮世の風をよそにして、如何にも滿足、喜悦の樣子、何處までも竹の園生に生れたるやんごとなきを思はしめる。夫人は何時も甲板上の遊戲、運動に加はり、嬉々として笑ひ興じ、或は甲板の欄干に身をもだれて靜かに下甲板の活動に見とれて居られることもある。夫人は今や人生の最も祝福されたる時に當り、其甘味に醉ふて居るの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。

▲三等の旅客は人間社會の百面相なると同時に、其最暗黒なる醜態をも赤裸々と露出して居ることを忘れてはらぬ。一人の支那婦人が六才と四才程の日本の女兒を携ひて居るのがある。幼なるを背負ひ、大きなる子の手をとりて甲板に立つて居る有様は今でも髣髴として眼に映じて居る。小供は何事とも知らずに、無心に支那婦人について居るけれども、慈母の愛情は全く味ふこともなからふ。察する所にこれは或る惡手段によりて小供を手に入れ、これから支那の内地にて一と儲けするのであらふ。支那婦人はつまり腹黒き男の手先きに使はれて、巧みに其筋の監視を遁けつゝ日本の小供を連れて行くのである。果して誰れを惛み、誰れを罰すべきかは分らないが、薄命なる小供の行末の如何に暗膽たるべきぞと思ひては、人知れず憐憫、憤慨の情に堪えなかつた。

▲上海から乗り込んだ二等客の中に二人の年若き英國婦人が居つた。共に看護婦にして、これより印度の一病院にて働くために行くとのこと。何處かに世の憂き悲みに惱みたる涙の跡も見え、何となく靜かで引き立たぬ樣に見えた。しかし海上浪穩かなる時は、何時も甲板の長椅子に身を休めて、しきりに書見に耽つたり、ノート、ブックを出して書いたりして居るのは餘所目にも心地よく感じた。わが一行の誰れや彼れやは早速話し對手となり、成るべく種々の話を引き出さうと試みて、包圍攻擊をやつたのは罪のないことであつた。後ち語りて云ふには、「先生、どうもエライもんですな、あんな看護婦でも、中々讀んで居りますよ。英國現代文學のことなど自由に品評し、問ひに任せて答へて毫も澁滯する所がありません。我々英語をやつたなんて、てんで彼等の小指だにも及びませんな。恥かしいものです。」と悄氣かへつて居る。勿論何處の國の看護婦であつても、種々異れる社會の紳士、淑女の病室に侍べりて、其間に樣々の談話を耳にし、見聞を擴めるのであるから、自然物識りにもなれる譯である。それにしても纖弱なる身を以て、異郷の空に奮闘的生活を送りつゝ、修養、鍛練に心を寄せて居るのは感服の至りであつた。日本婦人これに對して如何の感ありや。柔和にして、辛抱深いと云ふから、ちと博愛、慈善の志を抱きて看護婦にでもなつては如何であらふ。單にいかゞはしい水平線的職業に從事するを以て、公然の秘密たる國産物と心得るのは心細き極みである。

▲上海に於て一行の宿泊した所はミッショナリー、ホウムとて、一種のテムペランス、ホテルで宣教師などの宿泊するを目的として居る。主人は傍ら書肆を營み居るを以て三四人の店員も同居し、一人の取締りの外は皆若き娘達である。食堂にてはこれらの娘達と滯留客と雜居して主人の祈禱を以て食膳につき、喃々と語り合ひつゝ、心地よく食するのである。晩食後、共に祈り、歌を頌し、聖書を讀みて、定めの夕べの祈禱を濟まし、それから主婦の特別の心盡しにより、一家の中の歌手や、近くの學校に教ふるピアニストなど、老若打ち集ひて、小なる音樂會が催された。勿論素人のことなれば、左程巧妙なことはあるまいけれども、貴子娘に至るまで、勸めらるれば、臆することもなく、美聲を振り上げて歌ひもし巧みに鍵盤を操縱するなど、中々に心地

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

よい。又一坐隨一の樂人たる老婦人は拍手に送られてピアノに向ひ、入神の技を以て面白き一曲を彈した。時に自分の傍に眼鏡かけたる白髪の老婦人が歴板にした植物の標本の中から二三の羊齒を出して、これは何と云ふか、日本にあるか、と熱心になつて自分に問ふのである。聞けば此婦人は植物學を以て、老後唯一の道樂となし、屡々近郊に遊びて、標本採集をなすとのこと。日本の學校の教師が來たので、兼ねての疑問を解決して貰ふとするのである。自分はこれには、あつと計りに參つて仕舞つて一言の返答も出來ない。成程日本にはあるが、學名は何と申すか今記憶して居らぬなど〻、御茶を濁した。それから老植物學者は、日本の植物學者の名を聞き、又自らの名刺を呉れた。又自分と向ひ合はせに、もう一人の老婦人が居る。背の高い丈夫そうな女性である。紹介されて後ちに聞けば、當家の主婦の姉君で、多少の財産のある所から、獨力學校を設立し、兒童教育の任に當りてこゝに十數年に及び、經營、管理等萬端殆んど悉く他力を借りないとのことである。かくの如きが一坐の主なる人々であつた。老も若きも各々其務めに勵み、分に安んじ、閑あれば、燈下に一家團欒の樂みを交すは、いかにもうれしく、たのもしく思はれた。旅情を慰むるものは、甘き食物にあらず、美はしき景色にあらで、美はしき人の心の花である。

▲此夜、最寄りの西洋寄席（Variety-Hall）に入つた。年若き歌ひ女のはやり歌はオンコアの叫びに幾度か繰りかへされた。彼女は愛嬌たつぷりな微笑を洩らして觀客の氣嫌をとる。胡蝶の舞となるや、電光の作用によりて、千變萬化する色彩の美はしさ、輕妙なる舞ひの面白さに一坐は悉く醉はん計りである。これも再演を命せられ、目のまはる樣な舞をくり返へした。彼女はこつてりしたる化粧に、美はしき輕衣を着けて三たび舞臺に現はれ、艶な聲を張り上げつゝ、小さき足を前後左右に動かし、屡々裾をからげて踊る。觀客は其度毎に狂氣の如くに拍手喝采する。舞姫は幾度かキッスを送りて輕るやかに舞ふて居る。………其夜友の宅より歸る時、或町のバー（居酒屋）の前を急ぎ過ぎんとせしに、丁度其ドアがあいて、一人の醉客が出て來る、之れを見送るは先程の舞姫であつた。

▲船が呉淞の沖に錨を下ろした時に、郵船會社の某君が態々テンダーで社用旁々迎へに來てくれた。聞けば同君は一昨日以來三度迄テンダーに乘りて、濃霧の中にわれらを搜しても見つけ當らず、四度目にやつと目的を遂したとのこと。其好意實に謝するに辭がなかつた。上海二日の滯在は萬事同君の周旋によりて、短き時日なれば最も有益に經過した。同君はもと青山學院の出身で、上海支店唯一の敏腕家で兼ねて人格を以て推服せらるゝとのことである。上海についたのは大晦日のことであつた許りでなく、船の三隻も出入する、其荷物の揚げ卸しに目のまはる程忙はしいにも係らず、同君は何處までもわれらのために萬事周旋の勞を採られたのである。此夜自分は二人の友人と共に、一日の仕事の終はりたる後夜十一時半頃に、兼ねての約束を履んで、北社宅を訪問した。街頭電光閃めき、人影黑く地に横はるを見ながら、電車の道に沿ひ、それから左折した所に煉瓦造りの四層の建物がある。玄關のベルを押せば支那人のボーイが出て來る。某君の宅はと尋ぬれば三階なりと云はれ、靴音をコトコトさせて階段を上がつて行くと、此音を聞いたと見えて、三階の階段にわれらを迎へて居る一人の婦人がある。洒落たる姿に微笑を含みて、主人は一度歸宅して、社用のために再び出かけたが今に歸るべければ、暫はし待たれよとて、われらは美はしく飾られたる西洋間に通された。先づ心地よき椅子に腰打ちかけて室内を見渡せば、壁には純日本式の掛物、波に千鳥の縫泊、

など行儀よくかゝげてある。チムネーピースの上には親しき友垣の寫眞、小形の置物を上げてある。これから床の間とも云ふべき處に大きな鏡餅の上に鎌倉海老を乘せ、其傍には水引かけたる朱塗の屠蘇入れと三つ重ねの杯を置いてある。黒塗りのピヤノは音なきも無聲の樂を奏して家庭の和樂を歌ふて居る。茶を飲み、菓子をつまみて、夫人としめやかなる物語りに、旅情を慰め居る事暫にして、主人は歸つて來られた。數日來の劇務に流石强健なる身體も痛く疲勞されたる樣の見ゆるに係らず、蕎麥よ、餅よと客をもてなしながら、語りつゞくる間に時計は早くも二時を報じた。隣室には、むつがりて啼く、可愛らしき赤ちやんの聲がする。これが四十三年元旦の初聲であつて、日本將來の發展の曉鐘かとも思はれて何となく心踴る樣な氣がした。われらは計らずも友の切によりて、異鄕に除夜のまとひをなし、玄關まで見送られ、惜しき別れを告げて宿舍に歸へつた。

其後への云ふ所を聞けば〇〇君は上海日本人中屈指の人物、郵船會社上海支店の活動は同君の辣腕に依る所甚だ多く、其穩健、莊重なる人格は内外人の推す所となつて居るとのこと。夫人は能く家を守りて後顧の憂ひなからしめ、一たびわが家を訪づるゝ者は貴人にまれ、貧者にまれ、何等のへだてなく、共に慰安と滿足を與へらる。其主人が其職務に勵精し能く日本紳士の典型として重きをなす所以のものは實に此氣高き夫人の内助によることゝ多しと云ふことである。自分は歸國の後ち心ばかりの贈物を送りしに、見事なる筆跡にて、主人病みて病床にあれば代つて御禮をすると云ひこされたのは夫人である。神はこの淸き家庭を營み給ふて、上海に於ける日本人の發展の燈明臺となし給ふことは深く感謝すべきことである。希くば此燈臺の光を守る優しき女性に祝福あらんことを。

▲香港に五日滯在の後、五日間の航海を浪に搖られて、直路神戸に着いたのは風寒く、浪荒き一月十三日の朝であつた。折りしも怪やしげなる空合ひに雨さへ降りしきりて心元なし。檢疫を終へ、荷物を整へて、テンダーに乘り込み、やがて上陸して稅關の檢査も無事に濟んだので一行と別れて車に乘つた。香港を見た眼には神戸の家屋、商館はいかにも見劣りされた。成る程洋行歸へりが歸へて來て「あちらでは」と傲語するの訪此邊の呼吸もあるものと思ひつゝ、親しき老婦人の家を訪づれた。此老婦人とは二十年來の舊知、同じ故鄕で、同じ教會に出入したのであるが、八年前單身神戸に來り、婦人傳道の職に從事して居るのである。今は人の二階坐敷を借り受け、獨りわびしき自炊の生活を營みながら、老の波の身に寄せ來るのも忘れ、四方に奔走して悲める者を慰め、貧しき者の友となり居る豪氣な働き振りは壯者も及ばざる所である。特に所謂バイブル、ウーメンなる臭氣も厭味もなく、謙遜に、やさしく立ち振舞うて居るのは慕はしきことである。先づ二階坐敷に上がり、久濶、寒喧を敍したるのち、何は兎もあれ半日の休息を願ひ出で、早速暖かき床の上に數日來安眠に見放された疲勞せる身體を横たへたさりながら疲れに疲れた身體は俄かに安らかな床に臥しても却つて眠れない。それから晝食の箸を採り、心づくしの神戸肉もよそにして、野菜に餓ゑた自分は新らしい香の物のみをつゝいた。食後再び床に這入つた、身體はほてつて漸やく夢心地に入らんとする時に、客人の訪づるゝ者がある。襖一重を距て、瞑目して其風采を察するに年頃二十計りの人妻らしい。二人間の話によれば若くして働き人の後妻となり、先妻の子とわが子と共に育てゝ、姑の前、世間の前、何かにつけ心せわしく世を渡る女性である。老婦人を訪づるゝも、こゝに慰安を受けて歸らん爲めにして、つらき浮世に唯賴まるゝは神の惠の變はらぬことである。さて老婦人の云ふには、神に願ふ事ありて昨朝以來斷食して一心に祈禱をなし居るとの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こと。願ふ事とは、一つはさる幼稚園に働き居る堅氣な掃除婦と、教會に出入する勞働者とを娶することで、教會の若き姉妹達も大賛成で、着物を貸してやらふオルガンをひいてやらふとのこと。神の御意とあらば、二人の將來のために是非一緒にしてやりたい事。もう一つは今度某私立病院に入りて看護婦に傳道することを決心したが、まだ力足らず、心淸からざるを以て、しきりに斷食して祈り居る。今日來客ありて、共に箸を手にせしも、心に願ぎ事あればさまで欲しくなしかゞ語りたるのち、二人は共に膝打ち交はて、熱心なる祈禱を捧げた。老婦人先づ御意に叶はゝ結婚の許さるゝ様に、若き妻君が一家の主婦としてつらきを忍びて、神の榮を顯はす様にと祈り、つゞいて、若き妻君も身の不束なるを顧み給ふて、忍ぶ心を與へられてよと、聲涙共に下るばかりであつた。かくて若き婦人は慰められ、勵まされて、自分の義務にいそしまんとて歸つて行つた。自分は床の上に臥しながら、此有様を聞いて、淸き尼寺に詣でた樣に、心身何となく淨められ、心はいよ〳〵冴ね渡り、此氣高き老婦人の上に祝福あらんことを念じた。世には風月に餘生を託し、以て自ら淸しとなす者がある。勿論其は深く欽羡するに足るものがあるけれど、英國統一黨の老主領エチンバレンが餘命幾干もなき病軀を携ねて、議場に投票權を得んと活動しつゝあるを聞く者は、其壯烈なる精神に武者俠ひせざるを得ない。斃れて後ち止むの奮發心は實に個人の生命である。老婦人希くば健闘して倦む勿れ。

牛乳のうすめ方

醫學博士 加藤照麿

生後一週間は	牛乳一	水三
二週間より三週間	牛乳一	水二
三週間より七週間	牛乳一	水一
八週間より	牛乳二	水一
五ヶ月より	牛乳三	水一
七ヶ月より	牛乳一	水なし

また子供に飲ませる分量は

一週間は	一日に七回	一回に三勺
二週間より三週間	一日に七回	一回に五勺
四週間より八週間	一日に七回	一回に八勺强
三月より	一日に六回	一回に一合强

編輯だより

▲本誌編輯には些はかりの力も致さぬ身柄の、又しても此欄を横領することそあやしう候。筆のはづみに兎角はあらぬ方へそれてのみ走り候も、無理ならぬ事と豫め皆樣の御容赦を乞ひまつり置候。多年事務所に起臥しつゝ新人及新女界の生立行末、ふしぎに氣に懸り候程に、折々傍若無人の振舞ひ我ながら恐ろしう罪ふかく覺へ候。

▲思へば本年の今頃は如何に産み、如何に育てゝと社中同人の朝夕思ひ惱みし本誌が落花流水ゆめの如く誕生近き十二號を重ね候事限りなき恩愛の御手に依れる仕合せとは申ながら又熱心忠實なる讀者の御助けなくば如何でなほ今日あるを得候べき。

▲内容外觀共に未だなか〳〵滿足の域に遠く、同情を離れ熱心を去りては寸時も生育の望み覺束なきかとさへ危ぶまれ候らへ共、幸に號を追ふて歩一歩向上の途に進み候事只管感謝にたへず候。かくて本誌をして權威ある師友として恩愛の

慈母として、讀者の座右に捧げ得る其日を望みて、主幹主筆を始め社中同人の奮勵努力ゆめ怠らざるべきを覺悟いたし候本號より必らず毎號執筆の勞を惜しみ給はざる可き廣島なる栗原文學士の有益なる一篇今朝屆き候。開封手離すに忍びず遂に讀了、二千の讀者に先立つてぬすみ見したる罪深くは候らへ、又己みがたき情と御宥しを願ひ候。又今日は久々ぶり三澤博士訪れ給ひて「昨日一日は新女界の爲め籠城しました」との御仰せ。中村春雨先生は米國印象記を本月號より新人誌上に寄せらるゝ事となり、かれにもこれにも言ひしれぬ力をまして、誌上自から春を告げ候かゝ嬉しう候。其他色々讀むべく味ふべき數篇有之候よし何れも編輯主任の御骨折さこそと御察し申上候。さりながら之を手にし之を味ひ之に依りて不斷の糧を見出し讀者のよろこび又たとしへなきを思へば聊か御慰み下さるべく候。

▲序ながら申上度候は本郷教會婦人會本年の勇ましき武者ぶりに候。さらでもたゞには在さぬ、奥様方の其間猶時間をさき、金錢を惜ます教會發展の爲め、特にあやめ會小時の働きとして青年學生の爲め母となり姉妹となり、手を代へ品を代への御活動げに今更感佩の至りに存候。一度教會の門に入りて眞に其空氣にふれし者は、海老名先生の高風に接して、いひしれぬ勇氣を得られ候と共に、此婦人會員の溫情に浴して胸中の春を感じ給ふ事と信じ候。かく申上候につけても此團體に加はりて共に働き、共に樂しむ可かりし身の、京を去りて山へ三十里、行くべき日の切々に迫るを思へば泣きたくなり候。在京九年我ながら空恐敷程我儘なる生活を續け候にも拘はらず、都の人の胸ひろう許し結び候ものを、げに都は我か爲めに暖き故郷にしてなつかしき父母の家、去りがたき情ひに後髮引かるゝも致方なく候。されど今はたゞすべての事、天意と送らるの處に、小さき務めを勵むべく覺悟いたし居候。莊麗の山姿、水明の流、幸に腸にしみ候ものあらばと夫のみ聊かの樂しみに存じ候。扨てはあられもなき横道に入りて思はず愚痴ならべ候おはづかしさ。終に讀者皆樣の御健在を祈上候。

（野口せい子）

＊　＊　＊　＊　＊

本誌定價 一部金拾錢（郵税ナシ）◎六ヶ月分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）
外國行定價 壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料	
[illegible]行	金廿八錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金[illegible]圓
一頁	金十圓
內表紙 二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候
東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年二月二十六日印刷
明治四十三年三月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彦
發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

御報次第早速品物持參御覽に入れ申すべく候

本場はまちりめん

近江國長濱名産

濱縮緬反物　小切れ　兵兒帯

うづら縮緬　濱絹　かざり織

眞綿　濱蚊帳　其他いろ〱

右は直接織元より取寄せ販賣致候に付

品質よろしく　價格やすく

本場に於て御求め被遊候とすこしもかわり御座なく候

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地中の橋通り

ちりめん屋　山田常愛

郵便振替貯金　東京一四六七五番

染もの御取次ぎ致候

和洋御菓子
漆器類
諸金物
雜貨類
其他何品
に依らず
御値段を以
て御用達申上候

あれこれと迷ふ世話なき

大便利商店

小石川小日向水道町五四
萬進物調進所
梅月堂

御一報次第
直ちに參上
仕可く候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都御染物

本檳榔子黑
江戸褄模樣類
新柄小紋色々

東京市小石川茗荷谷町九三
京屋 佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界前號目次

●親の愛　安井哲子

想苑

●滯歐所感　東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎

●吾國家庭の缺陷　梨本宮御用掛　櫻井鉚子

●新人（お伽話）　憐花生

●孤島生活の一日　藤郎生

家庭

●虐待に勝ちし婦人　奈良高等師範學校教授　藤堂忠次郎

●新らしき武裝　海老名みや子

●何故に感冒は恐るべきか　醫學士　金子魁一

●家庭に於ける信仰　なを子

●肌着の裁ち方　長尾いと子

講壇

●現代女子の宗教　海老名彈正

雜錄

●雜誌管見

●隨感
安井哲子、元良よね子、相原生、坂手宗市、鈴木生

●彙報、新刊紹介

新人三月號目次

●日本化かはた基督化か　海老名彈正

◎教壇

●舟を沖へ出せ

◎想苑

●過渡時代に於ける青年の覺悟　文學博士　三澤糾

●人生の發展　マスター、オブ、アーツ　中村長之助

●現代思潮より宗教へ　文學士　小山東助

●スペンサーの道德的理想　文學士　福井晉太郎

●祈禱論　文學士　三井芳太郎

◎詞藻

●米國印象記　中村春雨

●姫が池　憐花坊

●木賊　佐藤茂郎

●永生の一歩　秋

●あはれの人　しげのぶ

◎聖書研究

●シモン、ペテロ　海老名彈正

◎雜俎

●幕末先覺の片影　文學士　海老名一雄

●廣翁の宗教的風格　東禹生

◎最近文藝

●二月の小說

◎東都講壇

●建國の精神を懷ふ（田川大吉郎）●民族思想と基督教（法學博士鵜澤聰明）●在淸中に感じたる渡淸者の覺悟（中島半次郎）●支那學に關する意見（文學博士服部宇之吉）

◎時評

●現代思潮の側正觀　法學士　鈴木文治

●彙報●編輯たより●新刊紹介

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後○同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

本誌愛讀者諸君は

ライオン歯磨を

使用したる後啻に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

ライオン歯磨を

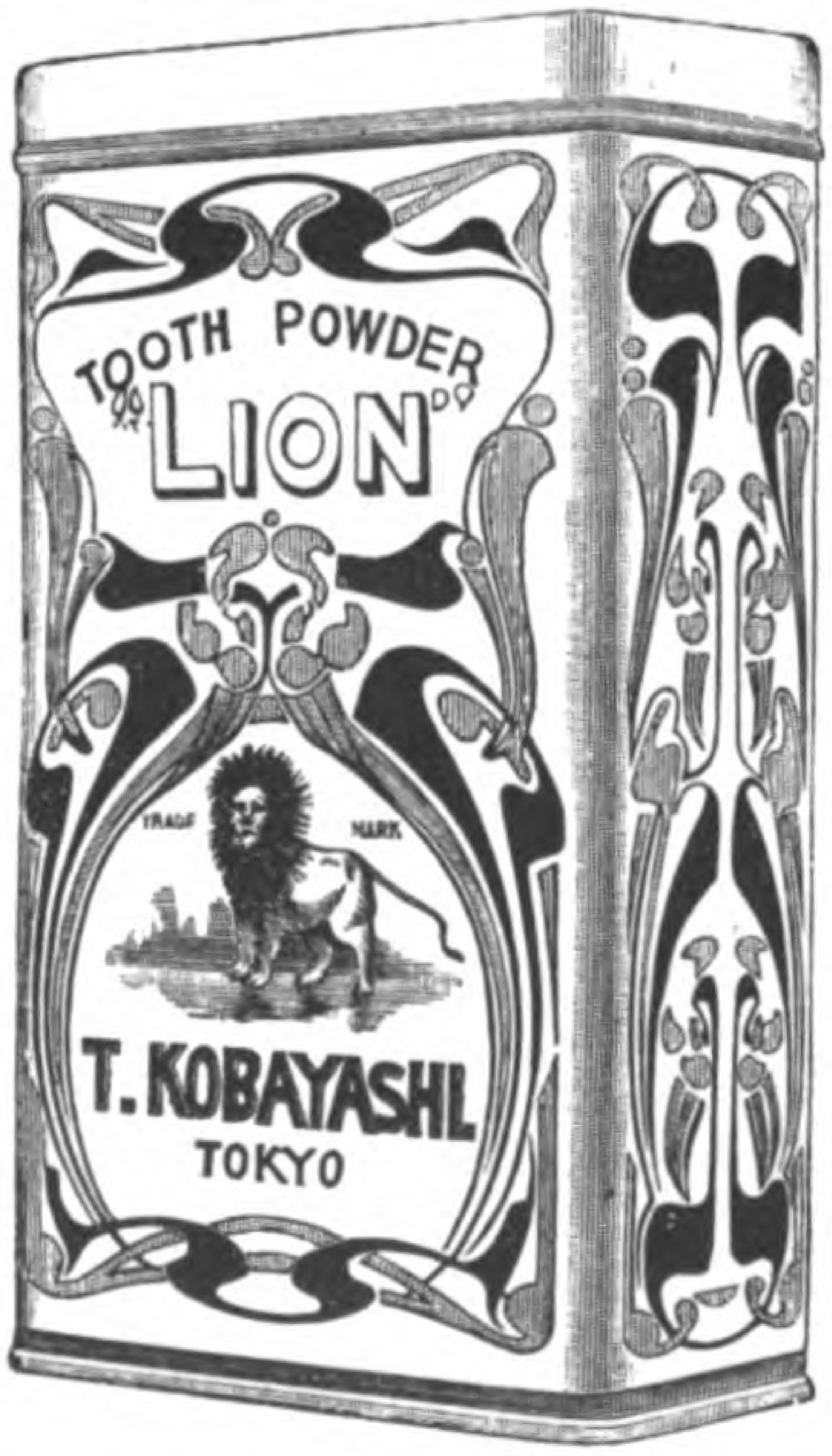
用ゐたる時の口中の爽快と齒牙の清淨とは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

家庭用

美術大鑵入



(定價　壹個　金廿五錢)

●試用見本御入用の方は振替貯金又は郵劵代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元　小林富次郎

東京市神田區柳原川岸

振替貯金口座東京二五二六番

支舖　大坂市東區博勞町　清國　天津　漢口

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN